

多文化共生

～遠隔日本語教育、外国籍住民実態調査、多言語放送～

多文化共生

～遠隔日本語教育、外国籍住民実態調査、多言語放送～

山梨県立大学

国際政策学部

総合政策学科

国際コミュニケーション学科

准教授 波木井 昇

准教授 安藤 淑子

准教授 前澤 徹爾

教授 浜崎 紘一

准教授 八代 一浩

看護学部

看護学科

准教授 長坂 香織

はじめに

機械・電機・電子業界の割合が比較的高い山梨県内の在住外国人は約1万7千人に達し、外国人人口比率は1.9%と同比率の都道府県番付では11位と高順位になっており、外国人との共生を進めていく上で、教育・情報発信を含めさまざまな分野での外国人支援の充実・強化がますます必要になっています。

本プロジェクトは、平成17年度から始まっており、20年度には以下の3つの活動に取り組みました。本報告書はこれら3つの取り組みを取り纏めたものです。

I. 県内及び海外の外国人労働者向け遠隔日本語教育

県立大学では平成18年度からパソコンのWebテレビ電話機能（SKIPE）を活用した遠隔日本語教育を実践しています。今年度は昨年につき（株）松下製作所の協力を得て、同社で働くブラジル人3名に対し、日本語レベルやニーズに応じた日本語教育を実施しました。

また、タイ・バンコクの北東、車で3時間のコラートにある松下製作所のタイ法人（コラート松下）で働くタイ人従業員に対し、同様に遠隔日本語の実験授業を行いました。

II. 甲府市外国籍住民実態調査

甲府市が策定予定の甲府市多文化共生推進計画のための基礎資料として、同市が実施した外国籍住民実態調査において、県立大学がアンケート調査の企画と分析等を行いました。アンケートは、医療、教育、地域社会との関わり、日本語学習、現在の日本語能力、日常必要としている情報などに関するもので、在住外国人（平成20年3月末現在、外国人登録者数5581人）のうち、約900名にアンケートを配布し、4割弱の方々から回答を得ました。

III. 多言語放送を通じた在住外国人向け情報発信

外国人向けの外国語での情報提供が不足しており、外国人に防災や生活情報を母語で送り届け、交流を深める中から、具体的な多文化共生の仕組み作りを目指し、多言語のラジオ番組を制作して、10月からFM甲府で毎週日曜日に10分間、放送を行いました。放送言語は、県内における外国人登録者数の多い言語順に、ポルトガル語、中国語、韓国語、スペイン語です。

今年度の研究活動の実施に際し、お世話になりましたの方々に、この場を借りて御礼申し上げます。

国際政策学部	総合政策学科	准教授	波木井 昇
	国際コミュニケーション学科	准教授	安藤 淑子
		准教授	前澤 徹爾
		教授	浜崎 紘一
		准教授	八代 一浩
看護学部	看護学科	准教授	長坂 香織

◇はじめに

I. 県内及び海外の外国人労働者向け遠隔日本語教育	1
II. 甲府市外国籍住民実態調査	9
III. 多言語放送を通じた在住外国人向け情報発信	29

I. 県内及び海外の外国人労働者向け遠隔日本語教育

1. 県内の外国人労働者向け

①実施状況

郊外に立地する工場の外国人就労者は、近隣に日本語教育機関がなく、また日本語教室へ通うための交通手段を持たない場合が多い。長期間日本に滞在しながらも日本語学習機会のない外国人就労者に日本語教育の場を提供するという目的のもとに、地元企業（株式会社松下製作所、概要下記）の協力を得て、山梨県立大学と企業を繋いだ IT 遠隔日本語教育を実施した。今回は最初の実施から3年目にあたる。

（株）松下製作所の概要：

山梨県笛吹市一宮町に本社工場がある。1959年設立の精密部品・金型メーカー。従業員、約70名。タイに現地法人（コラート松下。1997年操業開始）を有する。

A) 日時

- ・ 第一回：2009年1月20日（火曜日）17：00～18：00
- ・ 第二回：2009年1月27日（火曜日）17：00～18：00
- ・ 第三回：2009年2月3日（火曜日）17：00～18：00
- ・ 第四回：2009年2月10日（火曜日）17：00～18：00
- ・ 第五回：2009年2月17日（火曜日）17：00～18：00

B) 参加者

- ・ 第一回 講師：安藤淑子（国際コミュニケーション学科教員）
チューター（学生）：山本真知子、近藤理子、松村奈美、山下早哉香
授業見学・記録（学生）：伊藤真喜子、築亜里沙、片野雅弘
学習者：4名（ブラジル日系人）
- ・ 第二回 講師：山本真知子（国際コミュニケーション学科4年）
授業見学・記録（学生）：片野雅弘、近藤理子
学習者：4名（同上）
- ・ 第三回 講師：山本真知子（同上）
授業見学・記録（学生）片野雅弘、近藤理子
学習者：4名（同上）
- ・ 第四回 講師 近藤理子（国際コミュニケーション学科4年）
授業見学・記録：山本真知子、片野雅弘
学習者：3名（同上）

・第五回 講師 近藤理子 (同上)

チューター (学生) : 松村奈美、築亜里沙、山下早哉香、伊藤真喜子

授業見学・記録 : 山本真知子、片野雅弘

学習者 : 3名 (同上)

②実施カリキュラム

A) 文字の学習 : 前回までのひらがなの復習と残ったひらがな全ての学習を行った。

毎回ひらがなの小テストを行い確認した。

- (1) ひらがなの復習
- (2) ま行～わ行の学習
- (3) 単語の発音
- (4) 単語の書写

B) 数字の学習 : 前回までの数字の復習と時間に関わる数字の読み、10～1000までの数字の読み方を新たに学習した。

- (1) 数字の復習
- (2) 時間の言い方
- (3) 金額の答え方

C) 動詞の学習 : 前回習った動詞の復習と飲食に関わる動詞を学習した。

助詞「を」の使用方法、飲食に関わる単語の発音と読みの練習を行った。

飲食に関わる単語にはカタカナ語も含まれているが、いずれにもポルトガル語の翻訳をつけた。

- (1) 動詞の復習 (「起きます」「寝ます」)
- (2) 動詞の学習 (「食べます」「飲みます」 + 助詞「を」)
- (3) 食事に関わる単語の学習

③教材

・文字教材 : ひらがな学習用の教材を使用 (『かな入門』国際交流基金)

・単語教材 : 子ども用文字語彙教材を使用 (『みる あそぶ にほんご』南アルプス市)

・練習問題 : ボランティア教室用日本語教材を使用 (『にほんご45じかん』専門教育出版)

上記教材のほか、絵カード、文字カード、数字カード、時計文字盤、自主作成教材、小テストなどを使用した。

④授業の方法

今回もテレビ電話システム (skype) 及びwebカメラ、学習者側にはスピーカーを使用した。接触の問題で音声の中断が二回生じた。

チューター学生が企業に出向しているときには学生が、学生のいない時は波木井が学習

者のチューターを務めた。チューターは教材の配布、小テストの回収、現場状況に関する報告（適宜）を行った。

今回は、3ユニット目（1ユニット5回）にあたるため、学習者は授業の方法を把握しており概ね問題なく実施することができた。

⑤今後の課題

課題の一つは参加企業の増加である。この遠隔教育システムは簡便かつ地域の特性に合致するものであり、大学としても、地域企業へのさらなる広報を行ないながら、参加企業を増やしていきたい。

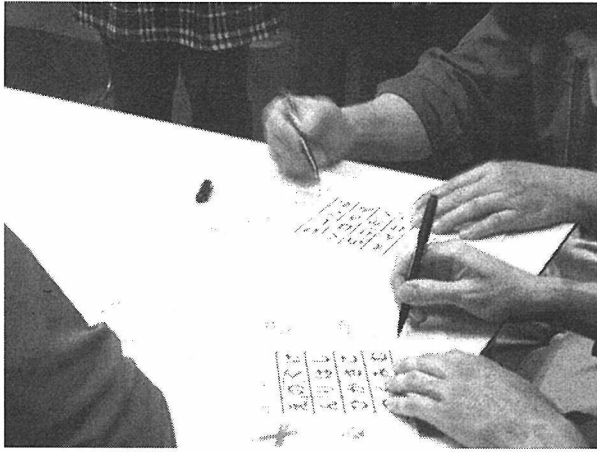
もう一つは技術上の点であるが、通信回線の容量の拡大である。同社が立地する付近は回線の容量が比較的小さいようであり、相対的に画像の鮮明さが劣るように思われる。今後、県内の様々な場所に立地する企業の参加が進む場合、より鮮明な通信状態で遠隔教育が行えるよう通信回線の容量拡大が期待される。

資料：

写真



松下製作所の会議室でパソコンを通じて学ぶ
学習者



ひらがな学習用の教材を使う学習者



県立大学の研究室からパソコンを通して
授業を行う県立大学学生①



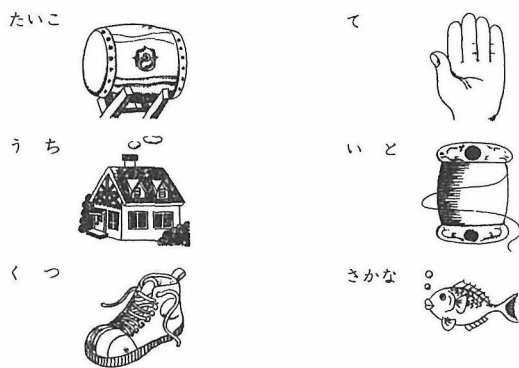
県立大学の研究室からパソコンを通して
授業を行う県立大学学生②

教材

「おていしめ」

■ 2 課

た ta	ち chi	つ tsu	て te	と to
な na	に ni	ぬ nu	ね ne	の no
は ha	ひ hi	ふ fu	へ he	ほ ho

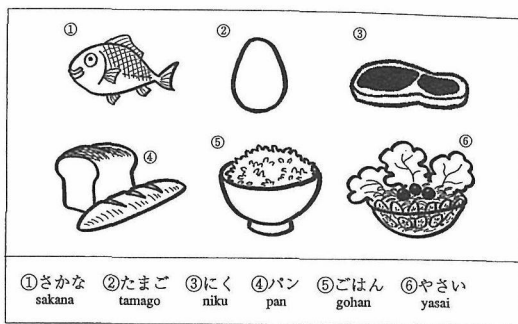


たいこ tambor うち casa くつ sapato て mao
いと linha さかな peixe

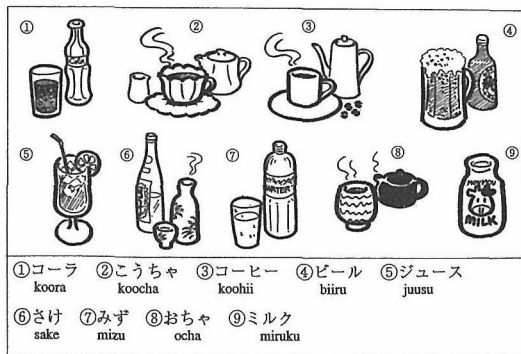
*「か・き・く・け・こ・さ・し・す・せ・そ・た・ち・つ・と・は・ひ・ふ・へ・ほ」の前の「き」「く」「し」「す」「ち」「つ」「ひ」「ふ」は母音が無音化する。例：くつ kyttsu。
As vogais de ki, ku, shi, su, chi, tsu, hi e fu são mudas quando vêm antes de ka, ki, ku, ke, ko, sa, shi, su, se, so, ta, chi, tsu, te, to, ha, hi, fu, he e ho; por exemplo: kytsu.

「いしやうごう」

○たべもの
tabemono






○のみもの
nomimono






HIRAGANA ひらがな 1

なまえ
名前()

	mi	み	
1	mu	む	
2	yo	よ	
3	uma	うま	
4	kumo	くも	
5	yama	やま	

HIRAGANA ひらがな 1

なまえ
名前()

	mi	み	
1	mu		
2	yo		
3	uma		
4	kumo		
5	yama		

2. 海外の外国人労働者向け

①実施状況

笛吹市にある（株）松下製作所の協力を得て、同社のタイ法人であるコラート松下（概要下記）で9月16日と17日の2日間、遠隔日本語教育を実施した。山梨県立大学の研究室から教員（安藤）がインターネットのスカイプ（TV電話）を利用して授業を行なった。タイ側では、コラート松下での夏期インターンシップ（県立大学の学生7名が実施）を引率した教員（波木井）と、県立大学の学生2名が、遠隔教育のサポートを行なった（この学生2名はインターンシップとは別に、遠隔教育のサポートと地元の大学との交流を目的にタイに渡航した）。

遠隔日本語教育は、コラート松下のタイ人従業員3名（日本語レベルは2名が初心者、1名がややわかる程度）を対象に、安藤研究室のパソコンとコラート松下のパソコンを結び、2日にわたり、1日1時間ずつ、簡単なあいさつ、ひらがな、カタカナなどの授業を実施した。この授業には、上述の本学学生2名（国際コミュニケーション学科4年2名）が、現地側で授業のサポートを行った。また、地元の国立大学で日本語学科を有するナコンラチャシマ・ラジャパット大学の日本語学科の学生2名が、通訳として授業をサポートしてくれ、同大学の日本語学科の教員2名が見学した。

コラート松下の概要：

親会社は松下製作所。1997年の操業開始で、現在のタイ人従業員数が約380名、日本人駐在員6名で、デジカメや腕時計、プリンター、自動車など向けの精密部品を生産し、主にタイ国内の日系企業に販売している。

②実施カリキュラム

◆第一回 9月16日（火曜日）12：00-13：00

（1）自己紹介 名前、国籍、職業を言う

文型 「わたしは_____です。」

*地図、絵カード、ひらがな文字表

（2）文字表を見ながら、名前と国籍をカードに記入する

（3）チューター学生と会話練習

（4）発表

（5）数字1～12

◆第二回 9月17日（水曜日）12：00-13：00

（1）あいさつ

(2) 疑問形と肯定・否定の練習

文型 「あなたは_____ですか。」

「はい」「いいえ」

(3) 数字1～12の復習

(4) 時間を言う 1時～12時、半

文型 「〇時です。」

「いま、なん時ですか。」

(5) 動詞 「起きます」「寝ます」

文型 「〇時 に 起きます / 寝ます」

③教材

ひらがな文字表、絵教材、時計版を使用

④授業の方法

テレビ電話システム (skype) 及び web カメラ、ディスプレイ、学習者側にはスピーカーを使用した。

チューター学生が2名 (山本、近藤) 参加し、教材の配布、小テストの回収、現場状況に関する報告 (適宜) を行った。またタイの大学生が通訳として参加、学習者の未習語彙の説明を行った。

⑤今後の展望

技術的なトラブルは特になく、山梨にある企業向けに行うのと同様に、在タイ企業向けにも実施可能であることが確認できた。社内のコミュニケーションはタイ語でなされる場合が多いものの、タイ人従業員の間では、日本人駐在員の不在時に、他社の日本人から電話がかかってくる場合に、日本語で応対が出来ると会社のためになるとの思いを持つ者がかなりいるなど、相応の日本語学習ニーズがあり、今後、地元の大学のサポートを得つつ、当面、年に1度、数回コースでコラート松下のタイ人従業員向けに、遠隔日本語授業を行いたい。

上述のコラート松下の例に見られるように、山梨の企業の在アジア法人は通常、多数の現地従業員を抱えており、現地人従業員には相応の日本語学習ニーズがあると思われ、こうしたニーズに応えるのも、県立大学として広い意味で地域企業の支援、地域貢献につながるといえ、地域企業の海外法人向けの遠隔日本語教育にも、力を入れていきたい。

(研究担当者)

波木井昇 (総合政策学科准教授)、安藤淑子 (国際コミュニケーション学科准教授)

資料：

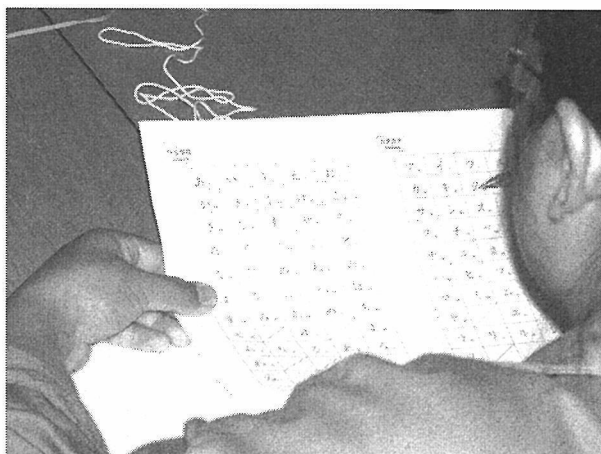
写真



コラート松下の日本語授業風景①



コラート松下の日本語授業風景②



ひらがな学習用の教材

II. 甲府市外国籍住民実態調査

1. 委託調査

甲府市から委託を受けた甲府市多文化共生推進計画策定支援業務として実施した。

2. 目的

甲府市多文化共生推進計画策定に向け、市の外国人住民の現状や課題等を把握することを目的とする。

3. 委託期間

平成20年9月1日から平成21年3月31日まで

4. 委託調査内容

甲府市外国籍住民実態調査の設計、データの集計及び分析
分析結果に関する報告書の作成

5. 実施状況

- (1) 他地域における外国籍住民実態調査報告書よりアンケート項目を抽出、分析を行う。
- (2) 甲府市より市内の外国籍住民の国籍・分布等の状況と、調査重点領域に関する聞き取りを行う。
- (3) 上記(1)、(2)より項目原案を作成、甲府市と検討の上内容・項目数の修正を行う。
- (4) アンケート用紙の原案作成。
- (5) アンケート用紙の翻訳(中国語・韓国語・英語・スペイン語・ポルトガル語・日本語ふりがな版を甲府市が作成)。
- (6) アンケート用紙の配布及び回収(甲府市が実施)。
- (7) 回収されたアンケートデータの扱いに関する検討。
- (8) 上記(6)のデータ集計、及びグラフ・表の作成。
- (9) 上記(7)の分析・

6. アンケート用紙の配布・回収方法

- (1) 配布・回収期間：平成20年10月15日～平成20年11月14日
- (2) 配布先：甲府市役所窓口、(財)山梨県国際交流協会、山梨大学国際交流室、山梨学院大学国際交流センター、外国籍児童生徒が10名以上在籍する小中学校及び甲府市多文化共生推進計画策定委員を通じて、6ヶ国語(中国語、韓国語、

ポルトガル語、スペイン語、英語、ふりがなつき日本語) で作成した調査票を配付 (参考資料)。

(3) 回収状況

	韓国語	中国語	ポルトガル語	スペイン語	英語	日本語	合計
配付数	265	219	162	98	81	70	895
回収数	130	99	41	33	18	11	332
回収率	49.1%	45.2%	25.3%	33.7%	22.2%	15.7%	37.1%

7. 調査結果の扱い

- ・平成20年度甲府市多文化共生推進計画策定委員会に、計画策定資料として中間報告を提出
- ・「甲府市多文化共生推進計画」(平成20年度甲府市) に資料として概要を掲載
- ・甲府市在住外国人実態調査報告書を作成
- ・山梨県立大学地域研究交流センター報告書に調査結果を掲載
- ・山梨県多文化共生推進協議会(部会) において調査結果を報告(甲府市)
- ・調査結果をプレスリリース(山梨日日新聞2009年3月13日・後掲)

8. その他

(1) 研究担当者

安藤淑子(国際コミュニケーション学科准教授)

(2) 研究協力者

八代一浩(国際政策学部国際コミュニケーション学科)

(3) 調査協力学生

長田まどか(国際政策学部国際コミュニケーション学科4年)

近藤理子(国際政策学部国際コミュニケーション学科4年)

山本真知子(国際政策学部国際コミュニケーション学科4年)

金宝美(国際政策学部総合政策学科3年)

菅原萌(国際政策学部国際コミュニケーション学科1年)

【参考資料】アンケート配布先一覧

	配付場所等	配付方法	回収
①	甲府市役所 市民課外国人係	窓口配付	窓口回収または郵便回収
②	甲府市役所 国保年金課保険料係	窓口配付	窓口回収または郵便回収
③	甲府市役所 市民税課個人市民税係	窓口配付	窓口回収または郵便回収
④	甲府市役所 健康衛生課保健係	窓口配付	窓口回収または郵便回収
⑤	甲府市役所 児童育成課子育て助成係	窓口配付	窓口回収または郵便回収
⑥	甲府市役所 児童保育課保育係	窓口配付	窓口回収または郵便回収
⑦	財) 山梨県国際交流協会	窓口配付	窓口回収または郵便回収
⑧	山梨大学 国際交流室	窓口配付	窓口回収または郵便回収
⑨	山梨学院大学 国際交流センター	窓口配付	窓口回収または郵便回収
⑩	小学校 (外国人児童が10名以上在籍する小学校)	各学校で配付	各学校で回収
⑪	中学校 (外国人生徒が10名以上在籍する中学校)	各学校へ配付	各学校で回収
⑫	多文化共生推進計画策定委員	委員配布	郵便回収

(甲府市作成資料)

「甲府市外国籍住民実態調査」集計結果¹

1. 性別・年齢・出身国

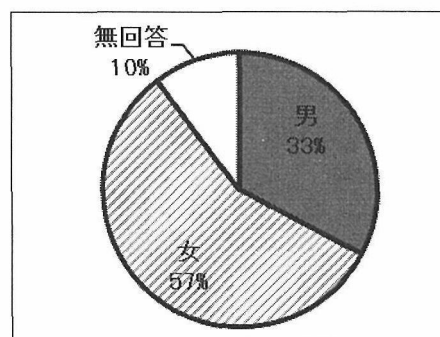
今回の調査対象者 332 人中男性が 33%、女性 57% (A-1 図)、年齢層は 30 代、40 代がほぼ 7 割を占めている (A-2)。

出身国は中国、韓国・朝鮮が過半数を占め (A-3)、次いでブラジル、フィリピン、ペルーの順である。甲府市の外国人登録者数 (平成 19 年末現在) では、中国 28.1%、韓国・朝鮮 27.6%、ブラジル 13.2%、フィリピン 8.2%、ペルー 5.0% の順であり、今回の調査は概ね人口比を反映した回答者比率となっている。

A-1 性別

単位：人

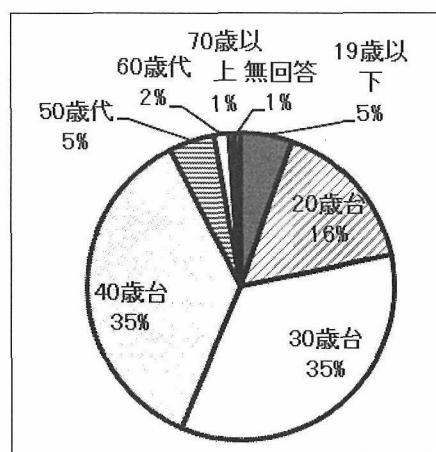
性別	回答数
男	109
女	189
無回答	34
計	332



A-2 年齢

単位：人

19 歳以下	18
20-29 歳	54
30-39 歳	115
40-49 歳	120
50-59 歳	16
60-69 歳	5
70 歳以上	2
無回答	2
計	332 人

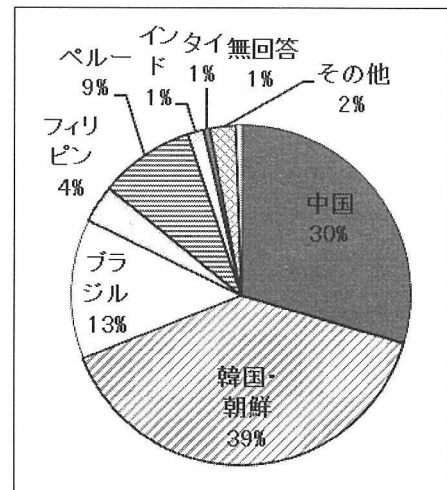


A-3 出身国

単位：人

¹ ここでは、単純集計の結果のみを記載する (詳細は『甲府市外国人住民実態調査報告書』参照のこと。なお、以下、表中の項目はアンケート調査 (資料参照) の選択肢の順であり、数値順位とは一致しない。

出身国	回答数
中国	98
韓国・朝鮮	131
ブラジル	44
フィリピン	12
ペルー	30
インド	5
タイ	2
その他	8
無回答	2
計	332



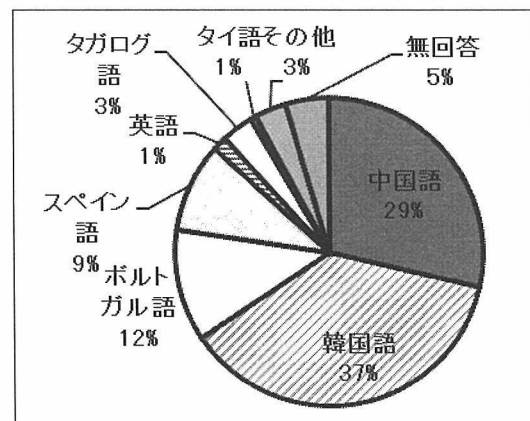
2. 母語、在留資格、職業

母語は出身国の人数比率に対応している（A-4）。在留資格は「永住者」が最も多く、「家族滞在」、「留学」、「定住者」の順である（A-5）。なお、甲府市全体（甲府市市民課統計 2007）では「永住者」、「日本人の配偶者」、「定住者」、「留学」、「家族滞在」の順である。職業は「主婦」が最多で、以下「学生」、「正社員」、「派遣社員」、「パート・アルバイト」、「自営業」と続いている。

A-4 母語

単位：人

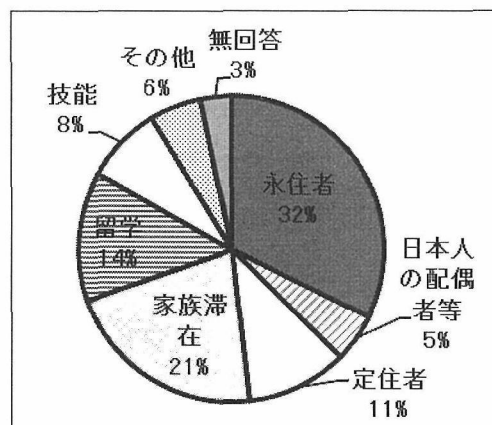
母語	回答数
中国語	95
韓国語	123
ポルトガル語	39
スペイン語	31
英語	5
タガログ語	11
タイ語	2
その他	11
無回答	15
計	332



A-5 在留資格

単位：人

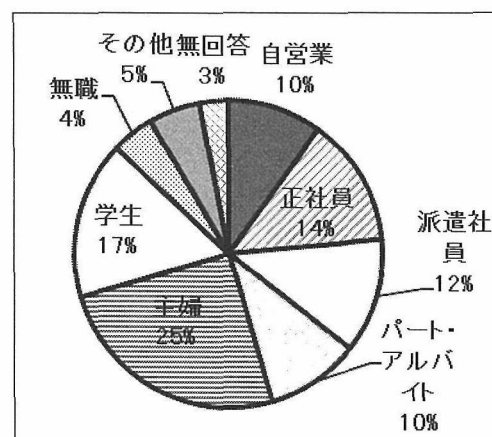
在留資格	回答数
永住者	107
日本人の配偶者等	17
定住者	36
特別永住者	0
家族滞在	71
留学	45
技能	27
その他	18
無回答	11
計	332



A-6 職業

単位：人

職業	回答数
自営業	33
正社員	45
派遣社員	40
パート・アルバイト	33
主婦	83
学生	55
無職	15
その他	18
無回答	10
計	332



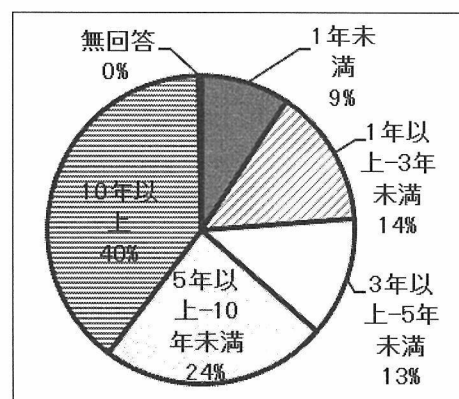
3. 滞在期間、滞在予定

日本に来てからの滞在期間は、10年以上が最も多く、次が5年以上10年未満となっており、両方で回答者全体のほぼ6割を占めている（A-7）。今回のアンケート調査の結果には、比較的滞在期間の長い人々が多く含まれていることがわかる。今後の滞在予定に関しては、「永住」が35%、「将来は帰国」が30%と一見相反する回答が上位を占めている（A-8）。

A-7 日本に来てからの滞在期間

単位：人

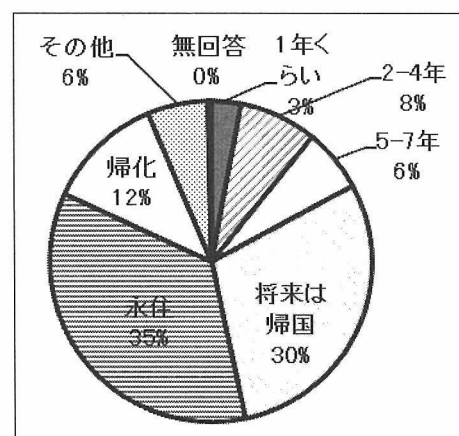
滞在期間	回答数
1年未満	31
1年以上-3年未満	48
3年以上-5年未満	42
5年以上-10年未満	79
10年以上	131
無回答	1
計	332



A-8 今後の滞在予定

単位：人

滞在予定	回答数
1年くらい	10
2-4年	26
5-7年	21
将来は帰国	98
永住	117
帰化	39
その他	20
無回答	1
計	332



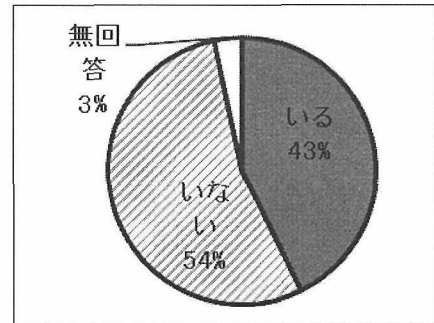
4. 日本語サポートと日本語能力

現在日本語をサポートしてくれる人がいるかどうかという質問に対して、「いる」が43%、「いない」が54%という回答であった（A-9）。日本語能力に関しては、受容技能「聞く」「読む」が、対応する表出技能「話す」「書く」よりそれぞれ若干高い能力を示している（Q1-1, 2, 3, 4）。ほとんどできないと回答した人は、「聞く」「話す」で5-6%、「読む」「書く」で9%程度であるが、いわゆる「片言」程度の日本語能力であると回答した人がそれぞれ20%程度存在する。

A-9 日本語サポートの有無

単位：人

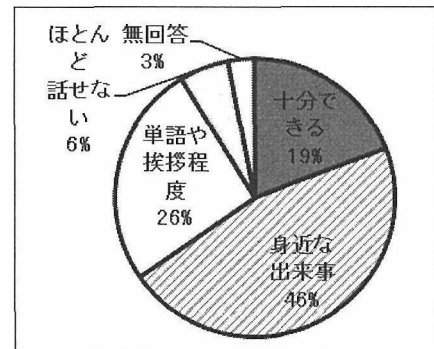
サポートの有無	回答数
いる	142
いない	179
無回答	11
計	332



Q1-1 日本語を話す力

単位：人

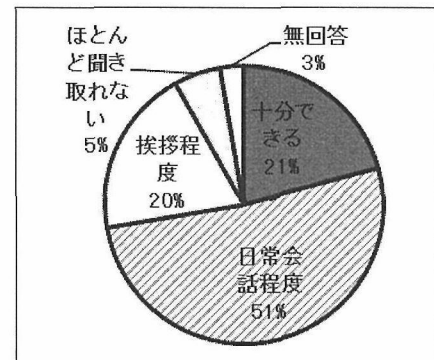
日本語を話す力	回答数
十分できる	64
身近な出来事について話せる	153
いくつかの単語や簡単な挨拶程度	86
ほとんど話せない	19
無回答	10
計	332



Q1-2 日本語を聞く力

単位：人

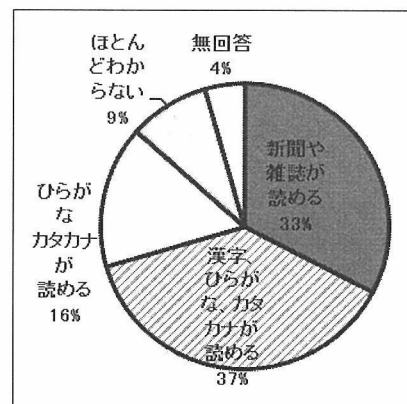
日本語を聞く力	回答数
十分できる	69
日常会話程度	171
いくつかの単語や挨拶程度	65
ほとんど聞き取れない	18
無回答	9
計	332



Q1-3 日本語を読む力

単位：人

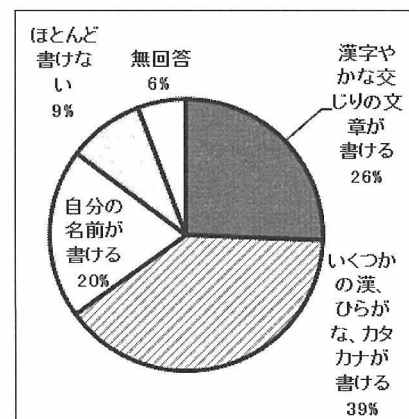
日本語を読む力	回答数
辞書を使えば新聞や雑誌が読める	108
いくつかの漢字とひらがな、カタカナが読める	126
ひらがなとカタカナがだいたい読める	53
ほとんどわからない	30
無回答	15
計	332



Q1-3 日本語を書く力

単位：人

日本語を書く力	回答数
漢字やかな交じりの文章が書ける	85
いくつかの漢字とひらがな、カタカナがほぼ書ける	131
自分の名前など、いくつかのひらがなとカタカナが書ける	67
ほとんど書けない	30
無回答	19
計	332



5. 日本語学習

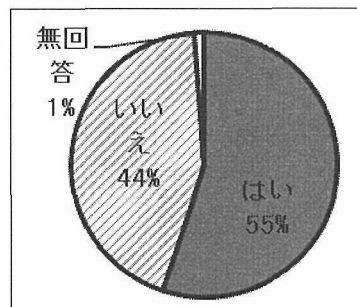
現在日本語を勉強していますか、という質問に対する回答は若干「はい」が「いいえ」を上回っている (Q2)。一方、日本語能力の調査 (Q1-1, 2, 3, 4) を見れば、必ずしも日本語学習の必要がない人々ばかりではないことがわかる。日本語学習の方法は、多くの人が「自分で」、次いで「日本人の友人・知人に教えてもらう」と回答している (Q3)。地域の日本語教室や日本語学校などの利用はあまり多くないようである。

日本語を勉強する目的としては、「生活に必要な情報を得るため」「日本人の友人をつくるため」「よりよい職業につくため」という回答が順に多く、日本語は日常生活のみならず、職場においても必要な能力であることがわかる (Q4)。日本語を勉強していない理由にはばらつきがあるが、「日本語ができなくても生活に困らない」と答えた人は少数だった (Q5)。なお、現在日本語を学んでいなくとも、機会があれば日本語を勉強したいと回答した人は95%に上る (Q6)。

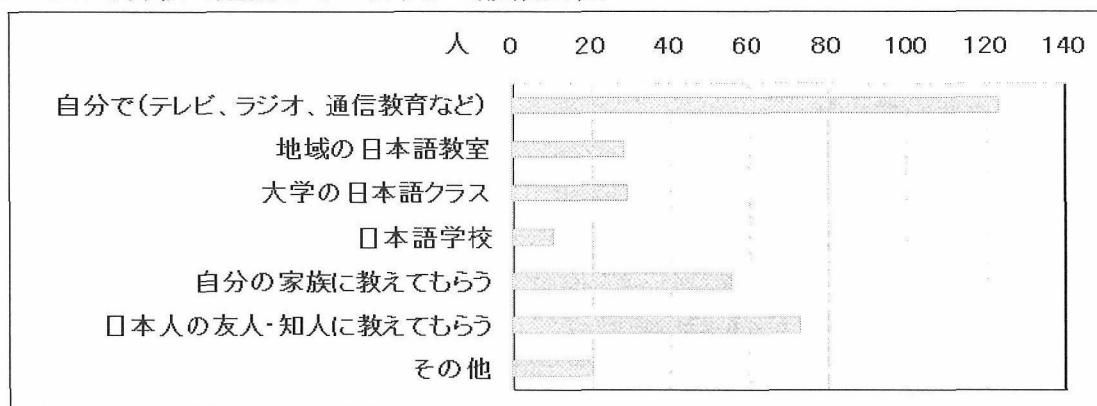
Q2 いま日本語を勉強していますか

単位：人

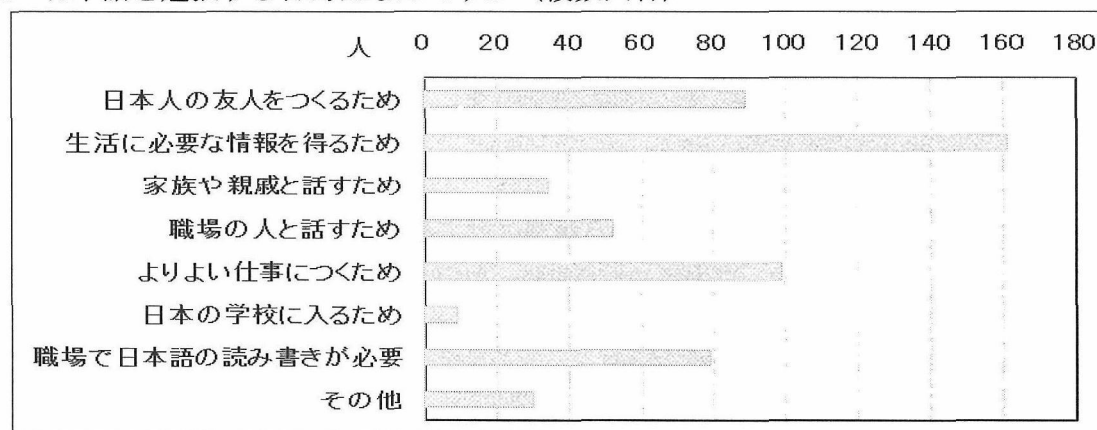
日本語を勉強していますか	回答数
はい	183
いいえ	145
無回答	4
計	332



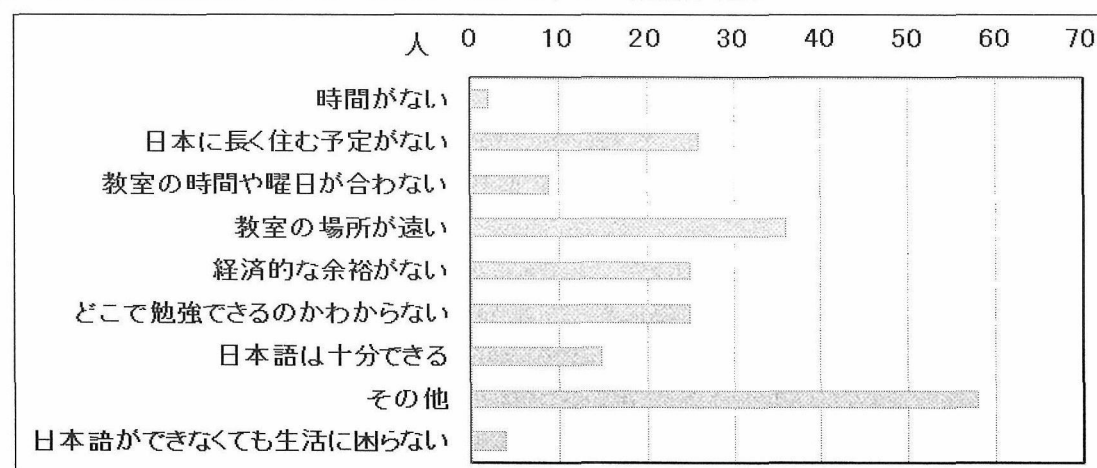
Q3 どんな方法で勉強していますか (複数回答)



Q4 日本語を勉強する目的はなんですか (複数回答)



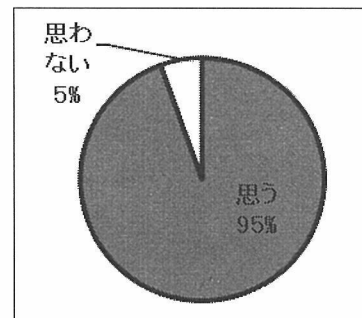
Q5 日本語を勉強していない理由はなんですか (複数回答)



Q6 機会があれば日本語を学びたいと思いますか

単位：人

日本語を学びたいですか	回答数
思う	172
思わない	10
計	332

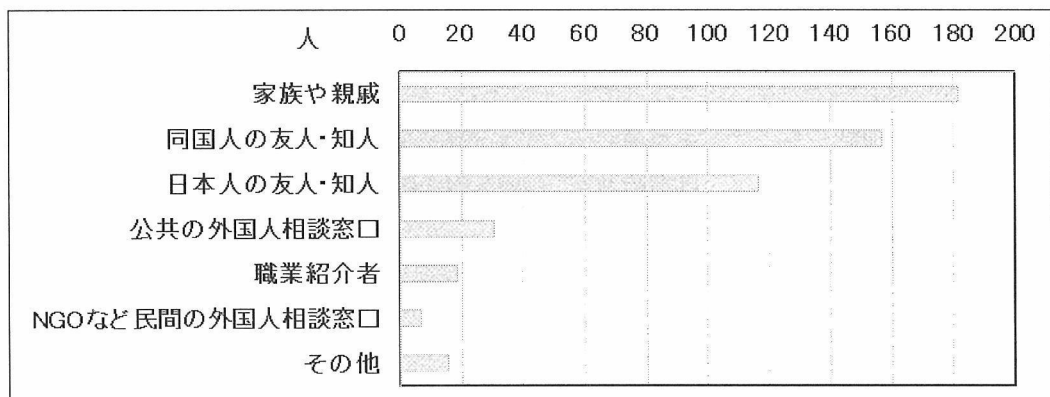


6. 生活・情報

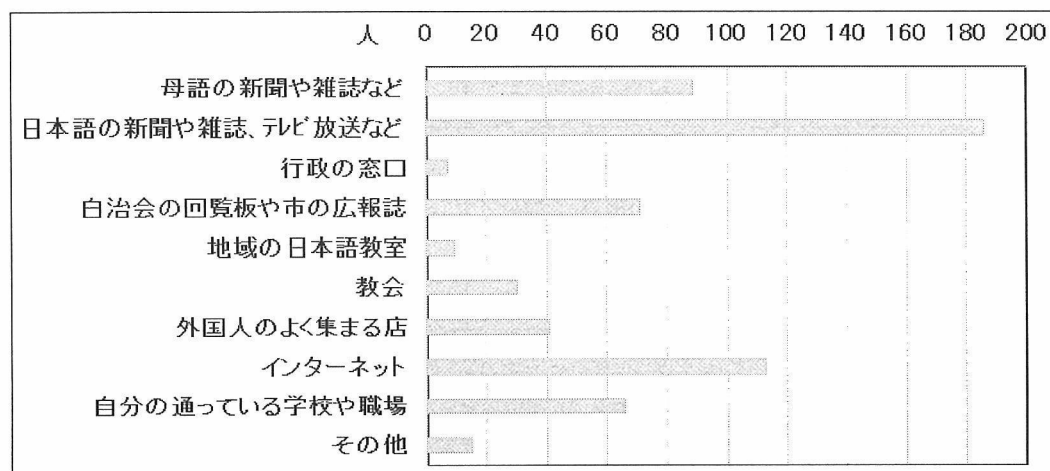
日本で生活する中で困ったとき誰に相談しますか、という質問に対しては親族を挙げた人が最多であり、次に同国人の友人・知人であった（Q7）。生活に必要な情報は、日本のマスコミから得ているケースが多いが、インターネット、母語の新聞や雑誌なども活用している（Q8）。

生活に必要な情報としては、医療に関するものが最も多い。以下、税金、日常生活、年金、事故・災害に関するものが続くが、いずれも回答数が多い（Q9）。行政サービスに関しては、通訳者の配置や翻訳など、多言語対応を求める声が多い（Q10）。一方で、市の作成した多言語による生活ガイドブック等を活用している人は3割程度にとどまっている（Q11）。

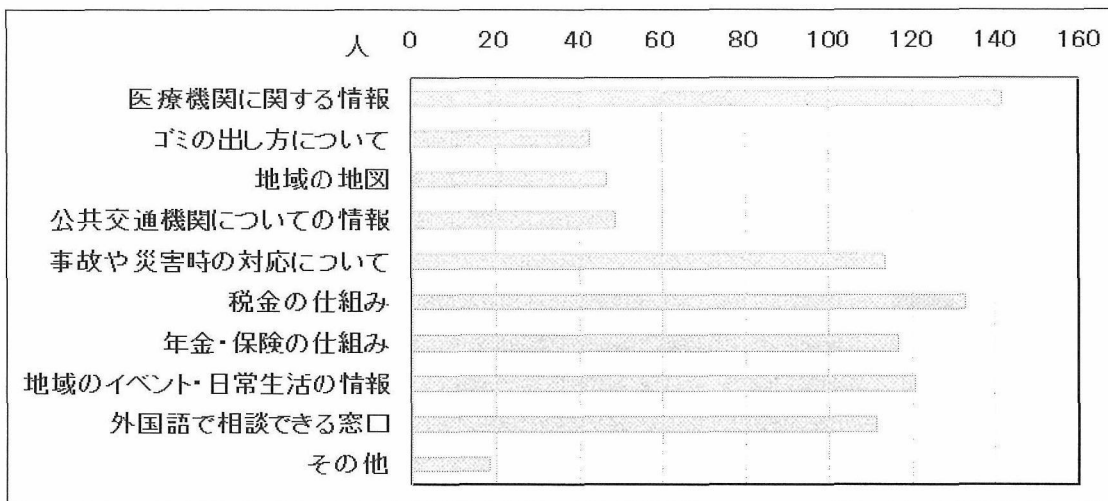
Q7 日本で生活する中で困ったとき誰に相談しますか（複数回答）



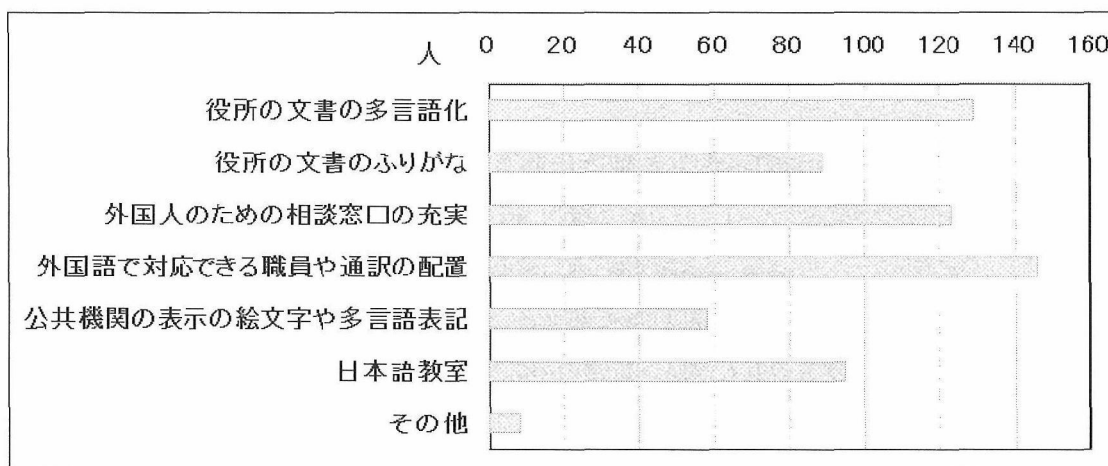
Q8 生活に必要な情報はどこから得ていますか（複数回答）



Q9 生活に必要な情報としてどのようなものを希望しますか（複数回答）



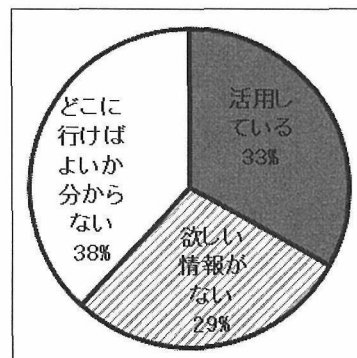
Q10 行政のサービスとして希望するのはどんなことですか（複数回答）



Q11 市役所が作成した外国人向け生活ガイドブックなどを活用していますか

単位：人

外国人向け生活ガイドブック等の活用	回答数
手に入れて活用している	98
手には入れているが、あまり欲しい情報がない	85
どこに行けば手に入るのか分からない	113
計	332



7. 健康・医療・保険・年金

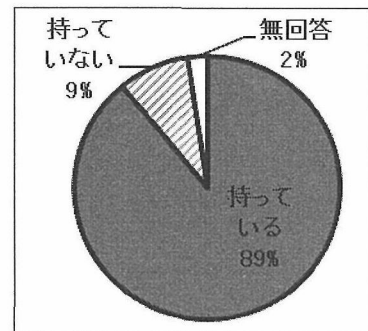
今回の調査では、保険に入っている人が9割近くを占めている（Q12）。加入していない理由としては保険料の高さを挙げた人が最多である（Q13）。

医療について困っていることに関しては、「日本語でうまく症状が伝えられない」など言葉に関わる問題を挙げた人が多かった（Q14）。雇用保険、年金に関しては加入していない人の割合が最も高く（保険47%、年金59%）、特に就労している人の加入割合の低さが目立っている（Q15, Q16）。

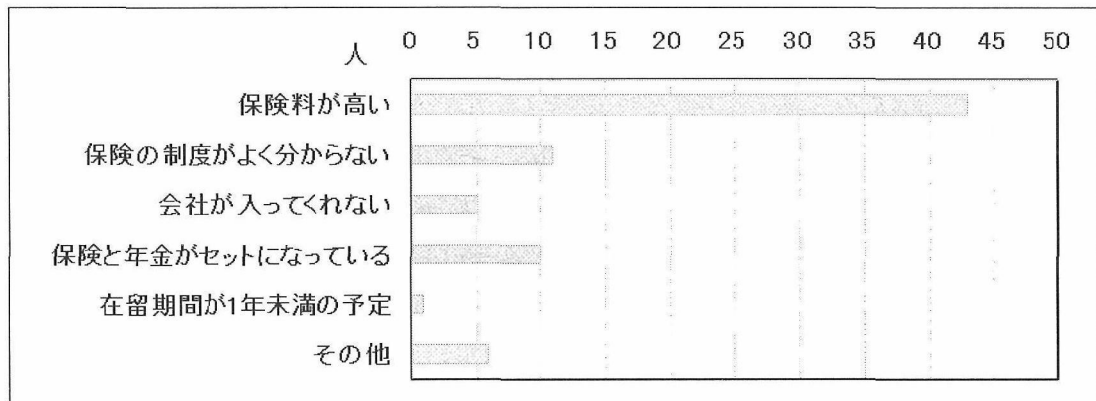
Q12 健康保険証をもっていますか

単位：人

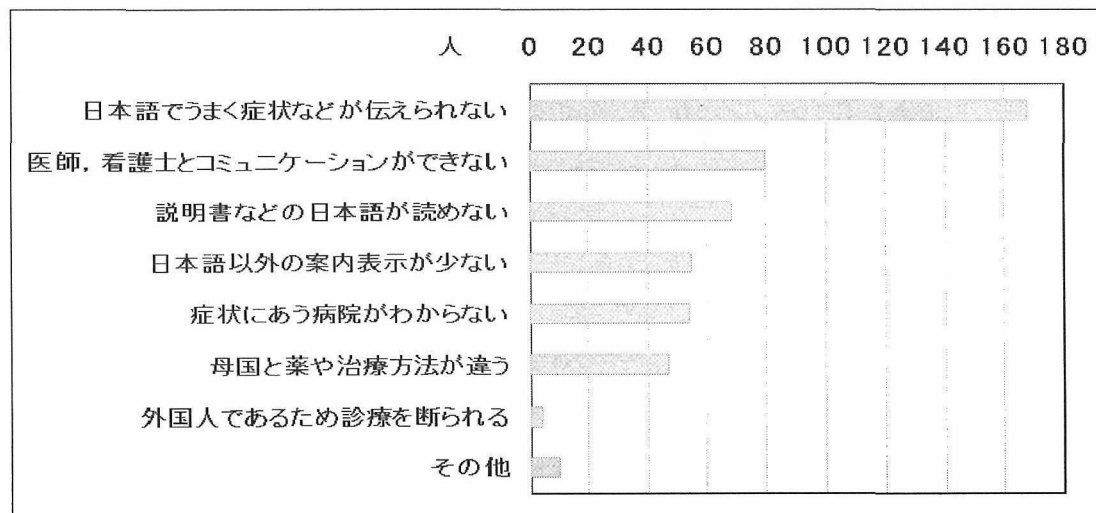
健康保険証の有無	回答数
持っている	295
持っていない	29
無回答	8
計	332



Q13 健康保険に加入していない理由は何ですか（複数回答）



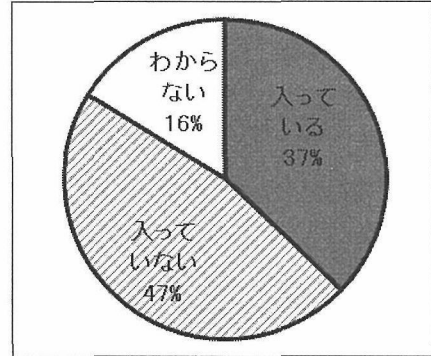
Q14 医療について心配なこと、困っていることはありますか（複数回答）



Q15 仕事をしている人は、雇用保険に入っていますか

単位：人

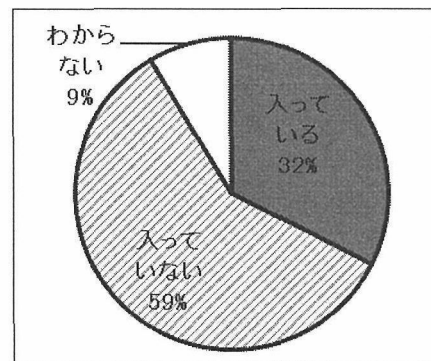
雇用保険の加入	回答数
入っている	76
入っていない	95
わからない	33
計	332



Q16 現在、年金に入っていますか

単位：人

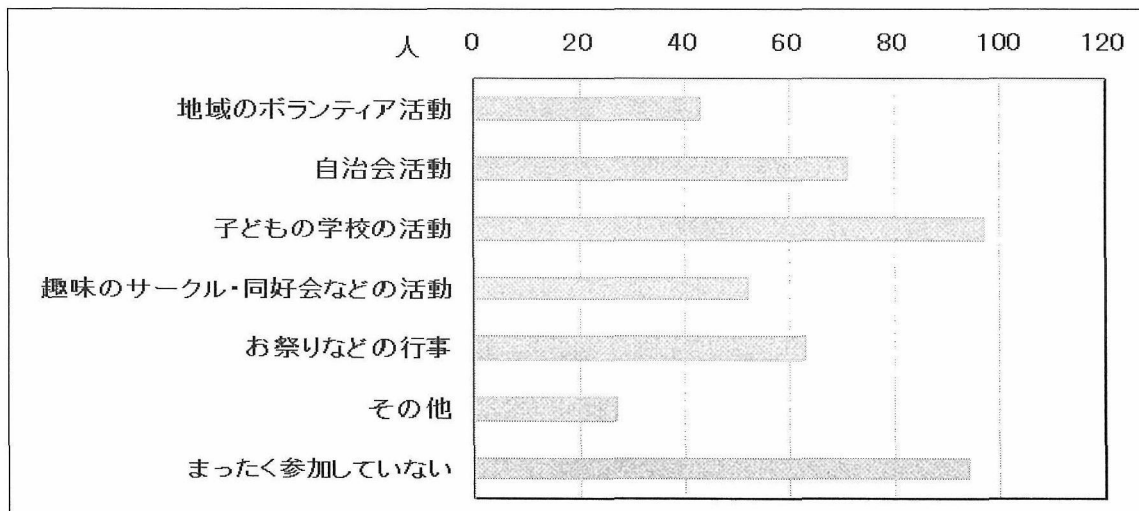
年金の加入	回答数
入っている	91
入っていない	165
わからない	24
計	332



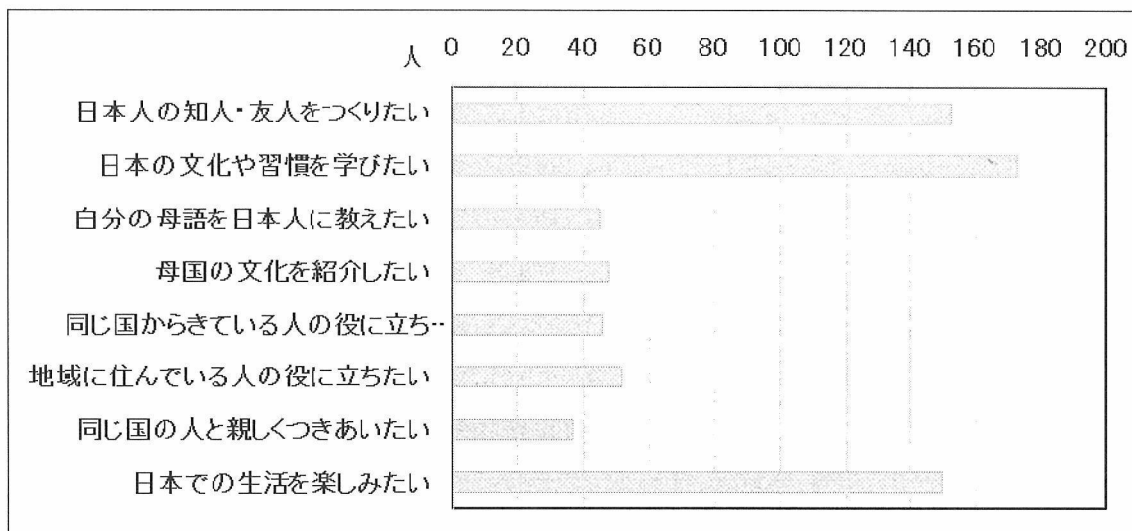
8. 地域への参加

現在地域の活動になんらかの形で参加していると答えた人が、全体の7割以上を占めている。また、活動形態も学校、自治会、地域の行事など様々である（Q17）。参加の理由としては、日本人と人間関係を作ること、及び日本の文化・習慣を学びたいという回答が多数であった（Q18）。また機会があれば地域活動に参加したいと回答した人（85%）の割合も高い（Q19）。

Q17 地域で参加している活動を教えてください（複数回答）



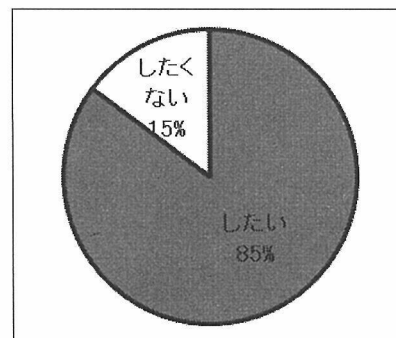
Q18 活動への参加を通して何がしたいですか（複数回答）



Q19 機会があれば地域の活動に参加したいですか

単位：人

地域活動への参加希望	回答数
したい	173
したくない	30
計	332



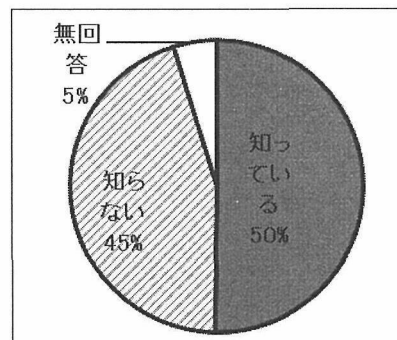
9. 防災

地震や台風の際の避難場所を知っている人は、回答者全体の半数程度にとどまっている（Q20）。知らない理由として広報と地域の防災訓練への参加の少なさが挙げられており、言葉の問題が背景にある（Q21）。緊急情報の入手先としては、母語を使用するマスメディアや身近な人々への依存度が高い（Q22）。防災に関する要望には、言葉や標示などのわかりやすさを求める回答が多数見られた（Q23）。

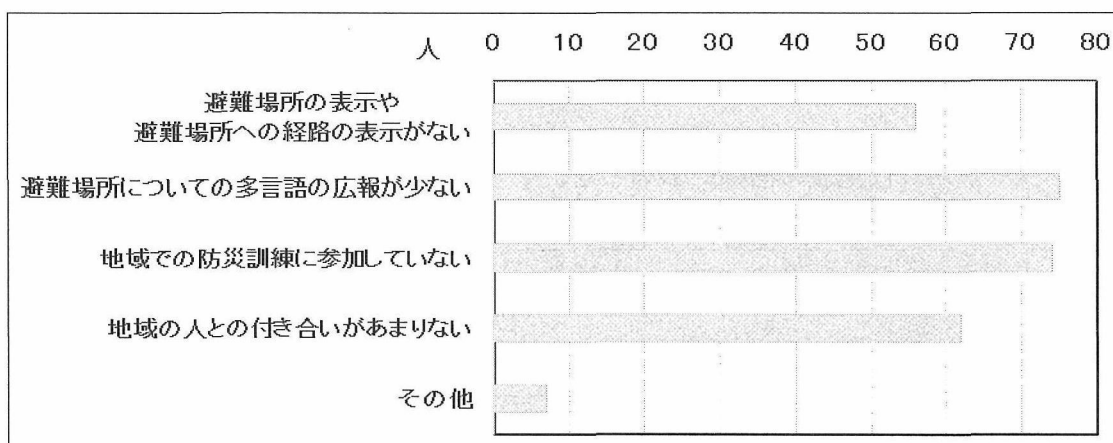
Q20 地震や台風の際の地域の避難場所を知っていますか

単位：人

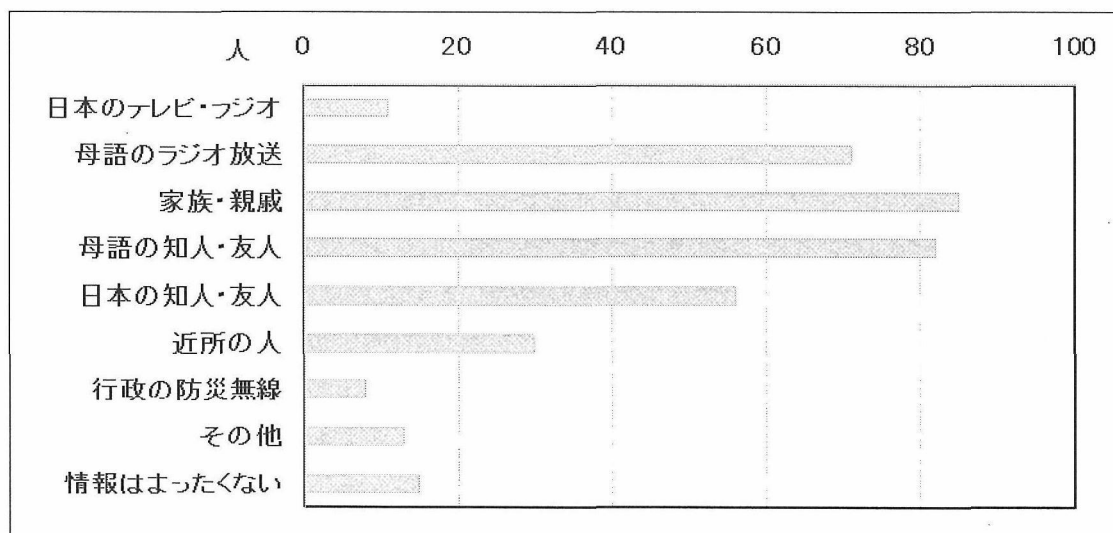
非難場所をしっていますか	回答数
知っている	167
知らない	149
無回答	16
計	332



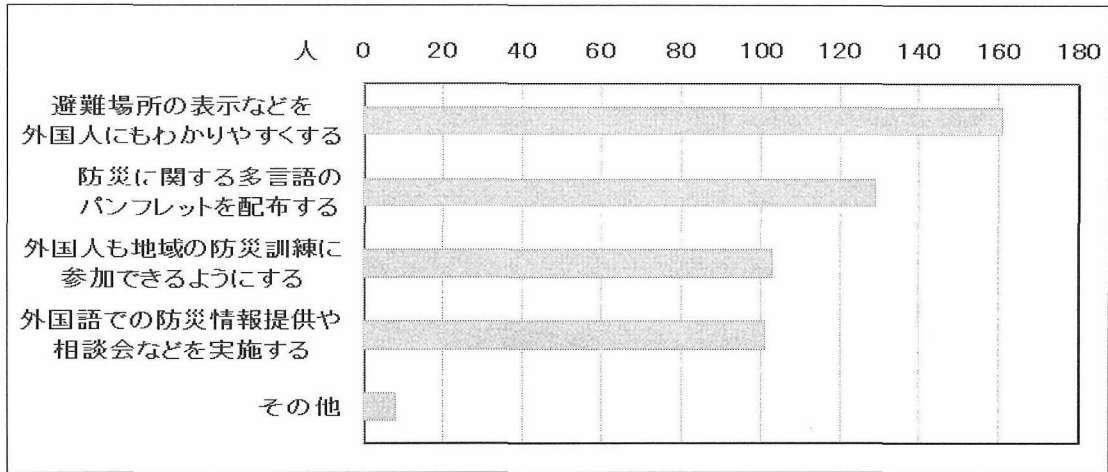
Q21 避難場所を知らない理由は何ですか（複数回答）



Q22 緊急時の情報はどこから得ることができますか（複数回答）



Q23 防災情報に関する要望がありますか（複数回答）



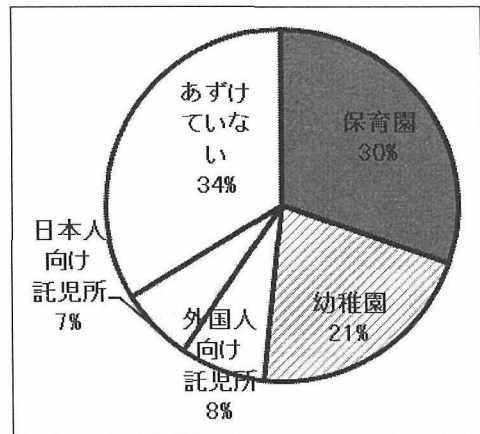
10. 保育・子育て

小さなお子さんのいる家庭では、施設等に預けていない人が3割近くに達している（Q24）。子育てで困っていること、心配していることとして子どもの母語の喪失を挙げた人が多数である（Q25）。幼い子どもほど日本語の習得が早いですが、一方で母語を失う確率が高くなる。低年齢のお子さんを持つ保護者に共通して「母語」の問題があることがわかる。また、同じ質問に対する回答に保護者同士の交流の少なさが挙げられている。子育てをしている親同士の情報交換のための場の提供が必要だろう。

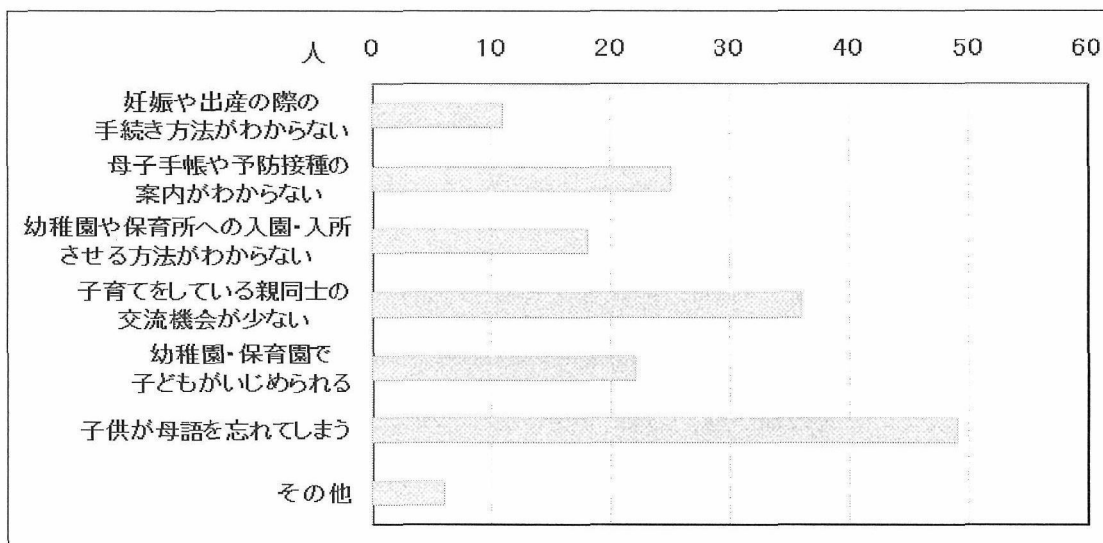
Q24 小さなお子さんがいる方は、現在の保育状況はどれですか

単位：人

現在の保育状況	回答数
保育園	27
幼稚園	19
外国人向け託児所	7
日本人向け託児所	6
施設にあずけていない	30
計	332



Q25 子育てについて何か心配なこと、困っていることはありますか（複数回答）



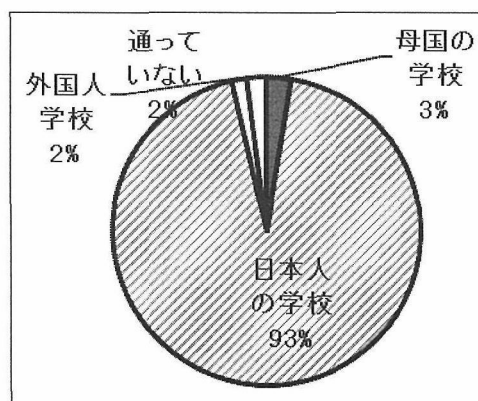
11. 教育

学齢期のお子さんを持つ保護者の大半が、日本人の行く学校に子どもを通わせている（Q26）。また、少数であるが子どもが学校に通っていないと答えた保護者（2%）は、その理由として、経済的な問題、手続き上の問題のほか、最も多数の人が言葉の問題を挙げている（Q27）。お子さんの教育に関する心配ごととしては、学校生活への不適應を挙げた人が最も多い（Q28）。これは言葉の問題、学校の規則・習慣の違いなど多様な要因を持つ問題である。最後に、学校に対する要望としては、進学や学校制度に関する説明・指導、学校からの連絡文書の多言語化、通訳者の配置などが挙げられている（Q29）。

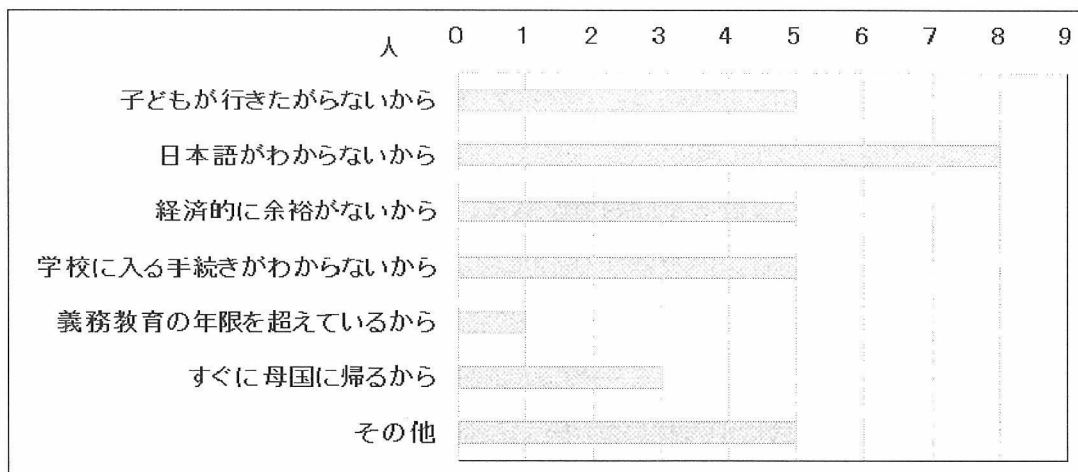
Q26 学齢期のお子さんのいる方は、いまどこで教育を受けていますか

単位：人

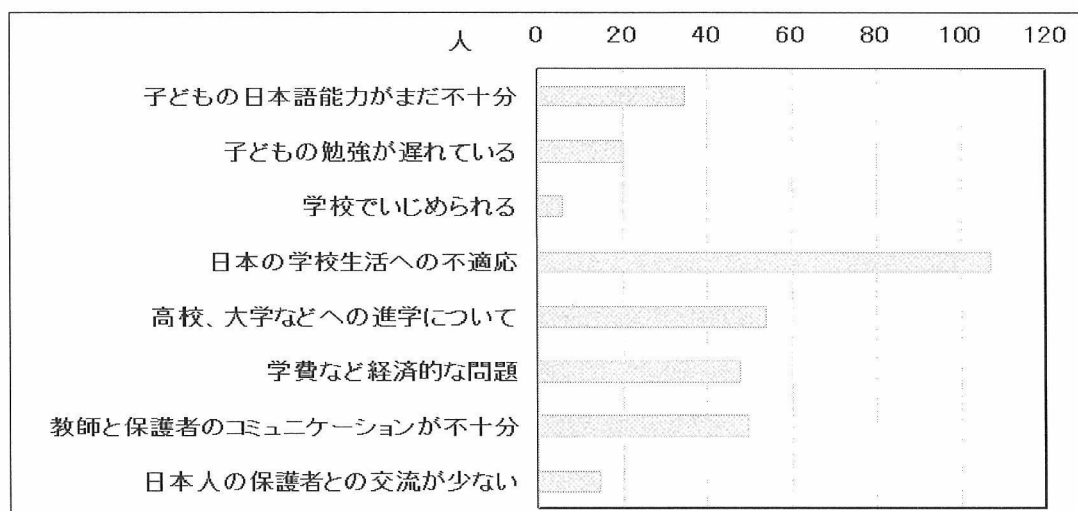
通学状況	回答数
母国で学校に通っている	5
日本人のいく学校に通っている	181
外国人学校に通っている	3
学校には通っていない	4
計	332



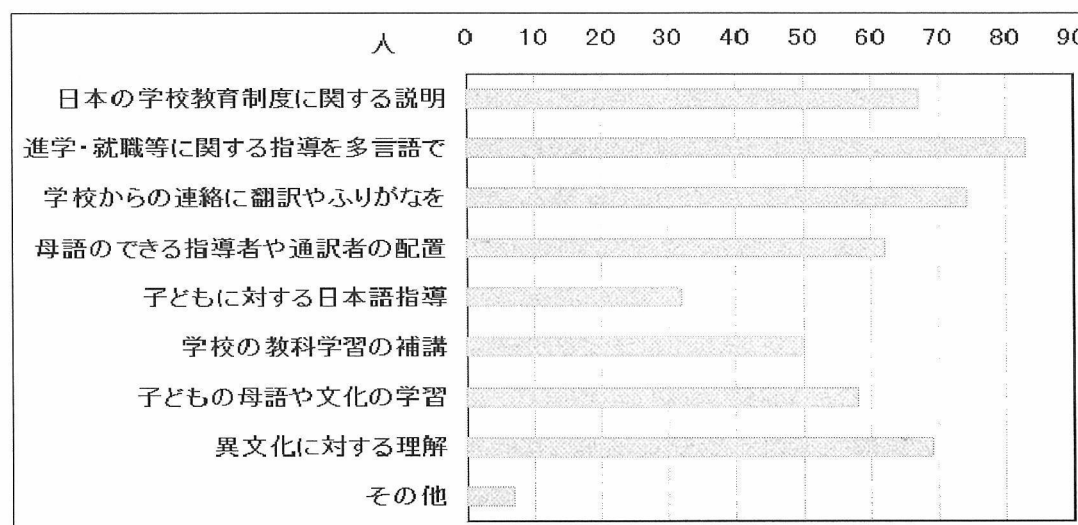
Q27 子どもが学校に通っていない理由は何ですか（複数回答）



Q28 お子さんの教育について何か心配なこと、困っていることがありますか（複数回答）



Q29 日本の学校に要望したいことは何ですか（複数回答）



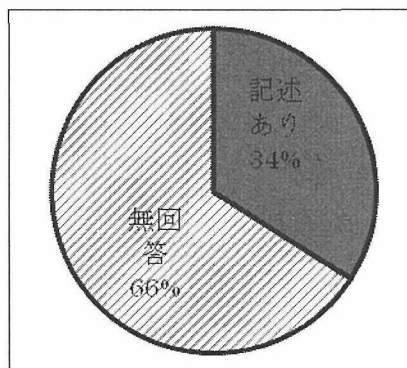
12. 自由記述

自由記述にはほぼ3割の回答者が見られた。詳細は、別途報告書（『甲府市外国籍住民実態調査報告書』）を参照されたい。

Q30 甲府市に住んでいて感じる問題点や意見、感想など自由に記述してください

単位：人

自由記述回答者	回答数
記述あり	113
無回答	219
計	332



Ⅲ. 多言語放送を通じた在住外国人向け情報発信

1. 研究の趣旨・目的・意義等

山梨県には、約 17,000 人の外国籍市民が住み、その中で甲府市内には約 5,600 人が居住する。「多文化共生社会」の必要性が叫ばれているが、その社会の実現のためには、多くの課題が残されている。そうした中で、「多文化コミュニティ」形成が重要であると指摘され、たとえば多言語パンフレット制作配布、日本語教育、交流イベント、ボランティア通訳などの活動が行われてきた。しかし、地域に拡散して住んでいる外国人を相互につないでいくことは、そう容易いことではない。

そのための具体的な一助として、山梨県初の「多言語放送」を実現し、その可能性の検証研究を試みた。甲府盆地を放送エリアとするコミュニティ FM 局「FM 甲府」で、2008 年 10 月から多言語放送番組の「Hello! TAGENGO」が放送開始された。番組企画から、サンプル番組制作、番組編成決定を経て、以降 6 ヶ月間に 26 回の放送を行った。外国語としては、ポルトガル語、中国語、韓国語、スペイン語の 4 ヶ国語での定時放送で行政、地域、イベント、文化、人物などの内容を放送する。

この放送は、多文化共生を進める上で、重要な情報基盤となり、大きな成果が見込まれる。その実施を通じて、その過程での諸問題の解決する方策を研究すると共に、参加する学生の教育方法の確立と評価を行なう。同時に、この事業に積極的に参画する学生にとっては、情報メディアの理解において、大きな学習効果があると考えられる。

その実践研究プロセスを総括し、その波及効果や可能性について、報告していきたい。

2. 「多言語放送」実現のための経緯

2007 年 11 月、CLAIR（自治体国際化協会）および県から、山梨県立大学での「多文化共生キーパーソン育成研修会」開催要請があり、08 年 1 月、2 月に 2 回実施した。多くの市民・外国人と学生が集まり、「キーパーソンを育成」するためには、概念や資格などを論議していても無意味であり、具体的事業を通じて「育成」されていくのではないかとの結論に至った。その事業の一つとして、多くの外国人が期待した「多言語放送」実施に取り組むこととなった。

早速、FM 甲府の川崎常務と打ち合わせをして、その実現可能性を検討した。元々、コミュニティ FM として、外国語放送に興味を持っていたが、実施体制が取るところまで至らず、実現していなかった背景もあり、番組を定期的に納品できるのであれば、番組枠を提供することになった。ただし、当面スポンサーは付かず、番組制作予算はない状態でのスタートである。

ネイティブ・スピーカー、一般市民、大学生が各言語別にチームを組み、番組制作

を行った。また、教員・学生が本部スタッフとして、スケジュール管理、機材管理、編集、納品を行った。

① 研究事業計画

ダイレクターの編集発行、キーパーソンとの連絡、人材の発掘、出演者交渉、山梨県・甲府市との協議、放送企画書の作成、放送台本の作成、演出構成、取材など放送のために必要な事項の決定と実施準備のために、以下の通り実施した。

<10月放送に向けての準備>

- 6月10日(火) 学生への「内容説明・オリエンテーション」
 - 6月11日(水) 第1回学生企画会議
 - 6月25日(水) FM甲府・常務取締役との意見交換
 - 6月28日(土) 第1回キーパーソン合同企画会議
 - 7月1日(火) 山梨県国際交流協会打ち合わせ、第2回学生企画会議
 - 7月15日(火) 第3回学生企画会議
 - 7月21日(月・祝) 第2回キーパーソン合同企画会議 サンプル版制作
 - 7月29日(火) FM甲府への実施計画およびサンプル版提出
 - 8月上旬～ 各チーム毎の実施準備
 - 9月14日(日)、15日(月・祝) 10月放送分制作
 - 9月16日(火) FM甲府に10月放送分納品および報道発表
 - 10月5日(日) FM甲府「多言語放送」開始 (各言語月1回9分)
- 以降、放送月の前月までに「4ヶ国語番組」を順次制作した。

その録音日は以下の通りである。

	10月 放送分	11月 放送分	12月 放送分	1月 放送分	2月 放送分	3月 放送分
ボルガル語	9月14日	10月13日	11月24日	12月21日	1月25日	2月22日
中国語	9月14日	10月19日	11月24日	12月21日	1月25日	2月28日
韓国語	9月15日	10月19日	11月16日	12月14日	1月22日	2月20日
スペイン語	9月15日	10月19日	11月16日	12月14日	1月25日	2月28日

② スタッフ一覧

(敬称略)

ポルトガル語	Native: 赤池ミッシェリ、クラウジオ正木、 市民：加藤頼彦 学生：柴山麻子、
中国語	Native: 袁芳、宝木蓮江、西野美齡、萩原桂子、劉イン、閻世欣、姚会穎 市民：新井玲子、佐野亀久子 学生：水戸部優美、五味あかね、
韓国語	Native: 金 宝美、李 美ヒ、 学生：後藤由佳、高野栄輔、
スペイン語	Native: 萩原エレナ、アレクシス・アチェコ、西田ジャクリネ、ロシオ・タケナカ 学生：坂口貴洋、角田みわ紀
本部スタッフ	学生：武川清志朗、佐藤環、中寫有沙

3. 「多言語放送」の成果検証

① 山梨初の「多言語放送」の実現

通常の放送番組は、放送局や広告代理店もしくはプロダクションからの企画から始まる。今回は、大学の講座への参加者を核として、非放送関係者が企画し、提案し、運営している。また、行政主体の取組でもない。こうした例は、全国的にも稀有なものである。1回のイベント的な放送ではなく、6か月にわたり、26回の番組を制作、放送できたこと自身、大きな功績と言える。

10月からの放送に向けて、内容や形式、録音や編集方法などについて、何度も打ち合わせを行い、スケジュール通りにCD-RをFM甲府に納品した。当初は、音声レベルの問題で、ノイズリダクションに手間取ったこともあったが、繰り返す中で技術的にも安定した。

多くの人は番組を制作した経験はなく、初めて番組ができてFM甲府で放送された時には、感慨深かっただろう。プロしかできないと通常思われている放送を一般市民でも可能であることを実証した。

今回の放送では、ほぼ外国語で放送されるので、放送内容を確認する必要がある。毎回日本語訳を作成し、FM甲府、やまなし・インターナショナル・ネットワーク、国際交流協会などの関係者に提出した。

② 外国人当事者による企画構成

放送内容は、実際に県在住のネイティブ・スピーカーが中心になって構成している。日本人は手伝いはするが、外国人当事者による企画制作を原則としている。何よりも、最も必要としている情報をその当事者が伝えることに意味がある。

チーム毎に定期的に企画会議を持ち、本番収録までには、放送台本が作成してきた。

ポルトガル語の場合は、山梨県内で活躍するブラジル人にインタビューして、番組構成をしていた。

ラジオの良さは、機動力でもある。すべて自発的に行われた企画である。こうしたことを持続し、リスナーが拡大することによって、定着していこう。

③ ボランティアの協働作業

この放送は、すべての人がボランティアで関わっている。その熱意に敬服しかない。民間放送は、基本的にスポンサー収入で番組制作を行っているが、初めての試みでもあり、当面は収入を期待できない。番組が定着し、リスナーが増えてこそ、初めてスポンサーが現れる。今回の6か月はその第1段階である。

とはいえ、全くのボランティアでは持続性に限界がある。直近の課題は、少しでも財政支援や活動支援されるように、各方面に訴えていかなければならない。

外国人、市民、学生が協働で一つの事業を定期的に行っていたことは、今後の他の活動においても参考になると考える。

④ 放送による効果

FM 甲府は、コミュニティ放送局で、出力は小さく、甲府盆地エリアをカバーしているにすぎない。また、日曜日の午後1時から10分間という小さな枠なので、放送自身の力量にも限界がある。放送開始後、投書などが多く来て、その紹介をしながら、2ウェイクで番組進行したかったが、残念ながらそこまでは至っていない。09年4月から30分枠になり、リスナーからの反応がくることを大いに期待している。

ただ、この放送実現の過程で、テレビ、新聞などの県内メディアが特集を組み、そうした活動自身を高く評価したことも事実である。「多文化共生」を具現化する新しい事業として、今後への期待も大きい。

⑤ 将来へのステップ

09年4月から10分から30分枠に拡大される。この時間拡大は、内容を充実させ、音楽や投書やインタビューなど様々な企画コーナーが可能となる。できるだけ多くの人に登場してもらい、生の生活感や貴重な情報を伝えていけるようになる。存在感が高まっていくことにより、資金、スタッフを拡大していくことになる。現在でも山梨大学や山梨学院大学の学生も関わっているが、さらに多くの大学生の参加も誘発していけると考える。

昨年10月、マイク1本・ICレコーダー1台から始まったが、その後4セットに増強し、オーディオ・ミキサーや電話録音の可能なピンマイクの導入などを行い、「生録音」が可能のように進めている。さらに、将来的にはFM 甲府とケーブル直結させ、「生放送」も可能にしていきたいと計画している。

(研究担当：前澤哲爾、安藤淑子(国際コミュニケーション学科准教授))

資料1 平成20年9月16日報道発表

山梨初の多言語放送番組「Hello! TAGENGO」放送開始

「FM 甲府」毎週日曜日 13:00～13:10

第1回は、10月5日ポルトガル語でON AIR

山梨県立大学 地域研究交流センター内
MLP「多言語放送プロジェクト」

放送目的：多文化共生の基礎となる情報インフラとして、多言語によるFM放送を開始する。
この放送を通じて、外国籍住民への確実な情報提供と相互情報交換を進めることによって、
山梨県の国際化に準備対応し、コミュニティFMの地域使命に貢献し、共生を実現するための
第1ステップを踏み出したい。
この放送は、山梨県、甲府市、国際交流関係団体、県内大学の協力の下で実施する。

放送日時および期間：2008年10月～3月（6ヶ月間）
毎週日曜日の13:00～13:10 定時放送（10分枠・実質9分）
2009年4月以降は、組織体制の強化により、放送時間拡大をしたい。

放送言語：山梨県における外国籍登録者数の多い言語順に放送する。
第1週 ポルトガル語（ブラジル）
第2週 中国語（中国、台湾、香港）
第3週 ハングル（韓国、朝鮮）
第4週 スペイン語（ペルー、コロンビア、チリ、アルゼンチンなど中南米諸国）
第5週 「プロモーション」

放送内容：「アバンタイトル」：毎回共通（4ヶ国語＋日本語での番組アナウンス）
「インフォメーション」：行政情報、イベント情報など
「企画」：毎回企画特集（別紙のテーマ案参照）
「番組からのお知らせ」：投書の送り先、予告など
「プロモーション」：第5週は、この番組を宣伝するための同一番組。

制作方法：山梨県立大学教員、多文化共生キーパーソン登録者（外国籍住民、ボランティア通訳、一般県民）、
および県内大学の登録学生が参加した「多言語放送プロジェクト」が製作する。
今後、他大学も含め、広く協力参加者を呼びかけていく。
言語ごとに4チーム編成し、企画、取材、録音、PC編集し、完成品を翻訳原稿と共に作成する。
YINによる内容監修を経て、FM甲府に納品する。
現段階においては、機材・人材などを山梨県立大学が提供する。

納品形態：9分完パケ（CD納品）

納品日：放送日の10日前（日本語訳付き）

番組提供および監修者：「やまなし・インターナショナル・ネットワーク YIN」
会長：大和田浩二（山梨YMCA 総主事）事務局：山梨県国際交流協会内

番組企画および制作者：「多言語放送プロジェクト MLP」
代表：前澤哲爾（山梨県立大学国際政策学部准教授）
事務局：山梨県立大学地域研究交流センター内

資料2

放送番組のテーマは、以下の通りである。

言語別企画 各月第1週 ポルトガル語

		番組企画
第1回	10月5日	防災 地震の説明 困った時の対応 避難の仕方
第2回	11月2日	県内で活躍しているブラジル人へのインタビュー（ヴァンフォーレ選手マラニョン）
第3回	12月7日	ブラジル柔術アカデミー経営のジョヴァンニさん。インフルエンザ情報
第4回	1月4日	学校事情 こどもたちへのインタビュー（田富中学校生）
第5回	2月7日	三人寄れば文殊の知恵。ブラジル食料店経営の永沢アダンさん
第6回	3月1日	ブラジル現地情報、定額給付金

言語別企画 各月第2週 中国語

		番組企画
第1回	10月12日	防災 インタビュー 投稿のお願い
第2回	11月9日	日本の医療（薬、病院、注意点、中国語の分かる医師）
第3回	12月14日	クリスマスと年末年始、インフルエンザ
第4回	1月11日	中国の旧正月と日本の節分
第5回	2月8日	ひな祭りとバレンタインデー
第6回	3月8日	信玄公祭り、花見イベント、ゴミ

言語別企画 各月第3週 韓国語

		番組企画
第1回	10月19日	防災 学園祭 投稿募集
第2回	11月16日	生活（ゴミの出し方やリサイクルについて）
第3回	12月21日	インフルエンザ。年末年始の日本の文化
第4回	1月18日	イベント（センター試験、抱負、投書）
第5回	2月15日	日韓のバス比較
第6回	3月15日	さくらとお花見

言語別企画 各月第4週 スペイン語

		番組企画
第1回	10月26日	防災（東海地震、避難場所、常備品）
第2回	11月23日	防災情報とこどもの教育
第3回	12月28日	日本の学校教育
第4回	1月25日	日本の習慣（年末年始と節分）
第5回	2月22日	現在日本にいる日系外国人の抱えている問題について
第6回	3月22日	仕事と定額給付金

各月第5週は、別の内容を放送した。

11月30日 「番組紹介プロモーション」（4ヶ国語による番組紹介）

3月29日 「この番組ができるまで」（県立大教員が日本語で解説）

- ① 企画を立てる
プライオリティ(重要度)
バラエティ(多様性)
- ② 構成を考える
導入部 (テーマの明確化、出演者の紹介)
内容と展開 (メリハリ、日本語を混ぜる工夫)
音楽の使い方 (紹介するなら、1分以上)
エンディング(音楽を最後に流すのはダメ)
- ③ 取材する
取材アポ取り (目的、場所、時間、謝金なし、など)
質問事項の整理 (何分で、何を聞くかコンパクトにまとめる)
インタビュアー (誰にしてもらうか)
機材調達 (収録セットの予約、テスト)
- ④ 録音する
マイクセッティング (できるだけマイクを近づけて、雑音のない音を取る)
原稿の確認 (内容が伝わり易いか)
話すスピードの調整 (速くないか、遅くないか)
録音の確認 (収録できたか)
記録表の記入 (忘れない内に作成する)
- ⑤ 編集する
データを取り込む (使い方を覚える)
パソコン編集 (アッセンブリー編集、ボリューム調整、ミキシング)
時間調節 (8分56秒にする。音楽をクッションにする)
ノイズキャンセラー (ノイズを取る)
最終確認 (流れはいいか、時間はいいか、ノイズはないか)
- ⑥ 納品
CD への書き込み (パソコンから記録する)
記録表の確認 (楽曲の確認、漏れはないか)
FM 甲府に納品 (CD+記録表)
国際交流協会と山梨 YMCA に記録表送付
- ⑦ 次回スケジュールの確認
内容の決定、事前打ち合わせの必要性
インタビュー、収録の日程
- ⑧ 09年4月から30分番組に拡充した場合の準備
 - (1) 2月から各言語2チーム編成にする。
 - (2) 30分番組の構成 (外国語と日本語の MIX 番組)
 - (3) 投書やインタビューなどを混ぜて、話題をふくらます
 - (4) 音楽を複数曲、紹介できる。
 - (5) 学生も話すチャンスを増やす
 - (6) プレゼントを用意する
 - (7) 機材をうまく使えるようにする

資料4-1 4ヶ国語で制作した番組のサンプルを以下に示す。

放送番組記録表 ポルトガル語 12月7日放送分

記入日時 (08/11/24)

	<p>構成者名 (加藤・ミッシェリ・柴山) 番組記録記入者名 (柴山麻子) パソコン編集者名 (武川) 完成日時 (08/11/24)</p>
番組テーマ	<p>山梨で活躍しているブラジル人 インフルエンザと予防接種について</p>
番組フォーマット	<p>00:00 統一タイトル 01:00 出演者名 (ミッシェリ) インタビュー挿入: 取材相手(ジョヴァンニ)、インタビュアー (ミッシェリ)、 取材場所 (グレース・バーラ・シダーデ)、収録者 (柴山) など 楽曲名 (カント・ダ・シダーデ (街中の歌声)) 08:56 終了</p>
番組内容	<p>皆さん、こんにちは。私はミッシェリです。これから FM 甲府のポルトガル語放送で、健康とスポーツについてお伝えします。 まず最初は、ブラジル柔術のグレース・バーラ・アカデミーを運営しているジョヴァンニさんに話してもらい、次に、インフルエンザについての情報をお伝えします。この番組は山梨に住むブラジル人の皆さん向けに作られています。皆さんに気に入ってもらえることを願っています。 それではインタビューを始めましょう。 (インタビューを流す) 「内容」・・・ブラジル柔術のグレース・バーラ・アカデミーについての説明です。彼は山梨同情の責任者です。女性や子供向けのダンス (アシェというブラジル独自の踊り) 教室も開いている。仕事のストレスを取るために柔術はとてもいいという紹介。 ここからはブラジルの歌を聞いてもらいます。歌っているのはブラジルの有名な歌手のダニエラ・メリクリイ。とても元気が出る曲です。 (音楽を流す) ここからはインフルエンザの重要性について伝えます。残念ながら、予防接種を受けたからといってこの病気に対して 100%大丈夫というわけではありません。私は昭和町にある、大塚内科小児科クリニックの大塚先生にお話を聞きに行きました。 先生はインフルエンザのウイルスだけではなく、このウイルスがもたらす病気、例えば肺炎から来る死亡のリスクについても話してくれました。単に風邪だと思ってもインフルエンザのウイルスであれば、ウイルスが脳にまで達して重い病気になることもあり、冗談では済まされません。 どうか、インフルエンザの予防接種を、あなたもまたお子さんも、受けてください。予防接種は6ヶ月のから12歳までのお子さんは2回、大人は1回受けるべきで、11月のはじめから12月半ばまでに受けたほうがいいです。効果が出るまでに2週間ほど必要なので12月中にでも受けてください。田舎にはすでにインフルエンザにかかった人たちが出ています。 もし、風邪をひいたと思ったらインフルエンザのテストを受けてください。一番安くつくのは予防接種です。大塚クリニックに行ったらポルトガル語の間診表がそろっています。電話は055-275-4161です。 今回はこれぐらいで終わりますが、聞いていただいてありがとうございました。この番組はラジオ FM 甲府なので、毎月第1日曜日の午後1時からです。もし何か問い合わせ、意見がありましたら、FAX055-225-1190まで、ご連絡ください。 皆さん、良いクリスマスとお正月をお迎えください。来年の1月の第1日曜日にお会いしましょう。いろんな情報を再び、お伝えします。また、お会いする時まで! さようなら!</p>
使用楽曲	<p>曲名 (カント・ダ・シダーデ) 作曲者名 Tote Gira/Daniela Mercury 作詞者名 Tote Gira/Daniela Mercury</p>

資料4-2

放送番組記録表

中国語

3月8日放送分

記入日時(2月28日)

	構成者名 (新井、佐野、萩原) 番組記録記入者名 (萩原) パソコン編集者名 (佐藤) 完成日時 (2月28日)
番組テーマ	「信玄公祭り、花見イベント、ゴミ」
番組フォーマット	00:00 統一タイトル 01:00 出演者名 (閻世欣) (姚会穎) 楽曲名 (悲曲) 08:56 終了
番組内容	<p>A: こんにちは。今、お聞きいただいているのは「Hello 多言語の中国語放送」です。私は閻です。</p> <p>B: こんにちは。まだまだ風の強い日が続き、寒いですがみなさん風邪などひいていないでしょうか？ 私はヨウです。</p> <p>A: 前回の放送では「バレンタインとひな祭り」について放送しました。</p> <p>B: 私は友達や両親にあげましたよ。今年のは男の子から女の子にあげる「逆チョコ」が流行りましたね。</p> <p>A: 皆さんは大切な人にチョコをあげましたか？ さて、今回の放送では皆さんに「信玄公祭り、花見イベント、ゴミ」についてお送りしたいと思います。</p> <p>B: 第39回信玄公祭りは毎年、甲州の名将「武田信玄公」をしのび、命日の前後に開催される「信玄公祭り」は4月10日から12日まで3日にわたって行われます。一番の注目は11日(土曜日)の日本最大級の武者行列「甲州軍団出陣」です。1500人あまりの軍勢が出陣し、信玄公役は金メダリストの柔道「山下泰裕」に決定しており、史上最強の信玄公に期待が高まっています。</p> <p>A: そのほかにも濃いひげコンテスト、県産品屋台、1000人規模の総踊り、出陣式典など多彩な催し物があるので、ぜひ4月10日からの3日間は甲府に足を運んで下さい。</p> <p>A: さて、次は花見イベントについて主に三箇所、お話をしたいと思います。</p> <p>新倉山浅間公園(あらくらやまあさま)は富士と市街地が一望できる絶好のスポットです。4月中旬の春には、残雪が美しい富士をバックに、約500本のソメイヨシノが華やかに咲き乱れます。次に甲斐新府城跡は4月上旬から中旬にかけて桃が最盛期となり、辺りはまるで敷き詰められたピンクの絨毯になります。</p> <p>B: 最後の清春芸術村清春芸術村(きよはる)のサクラは山梨県指定文化財に指定されており、南アルプスを背景に咲き誇る様は圧巻です。一部ライトアップも予定されています。</p> <p>A: さきほど紹介した三箇所以外にもたくさんの観光地でお花見などがあります。日頃の疲れを癒しに家族と出かけてみては如何ですか？</p> <p>より多くの情報を得たい場合、インターネット上に「花見」と入力すれば沢山の情報を得ることができますよ。</p> <p>B: お弁当などを用意して満開の桜の下で家族と一緒に寛ぐのもいいですね</p> <p>A: 最後に「ゴミ」のことについてお話をしたいと思います。皆さん今更ゴミの出し方について考え直すことはないと思っていますか？ 私は思っていました。燃えるゴミと燃えないゴミくらいはちゃんと区別できている！と思っていたのです。</p> <p>B: しかし、ゴミには燃えないゴミと燃えるゴミの以外に資源物・有価物の部類もあります。それを理解して皆が住みやすい町にしましょう</p> <p>A: まず甲府市を例にとってみましょう。資源物・有価物というのはリサイクルすると再利用できるもののことを言います。またそれらは月に一回収集される空き瓶、雑誌、牛乳パック、ペットボトルなどのことを指します。</p> <p>B: そこで重要なのが空き瓶はふたを取り外すこと。牛乳パックとペットボトルは中身が残らないようにいったん水洗いをする。スプレー缶は爆発の恐れがあるので必ず穴を開けてから出さなくてははいけません。</p> <p>A: 地域によってもゴミの収集日が違います。月曜日・木曜日、火曜日・金曜日、月曜日・水曜日・金曜日、等色んな収集日があるので今回の放送を機会に見直していただけたら</p>

	<p>とても嬉しいです^-^-</p> <p>B：10月から「指定ゴミ袋制度」が導入されます。市民でない人がゴミを捨てていく事態を防ぐためであります。ゴミ袋は有料化し、一枚につき、100入りは10円、200入りは12円、450入りは15円となります。また家具などについてはゴミシール券を貼ります。</p> <p>A：面倒くさいと感じるかも知れませんが自分の地域の状況をよく調べ、皆でよりよい環境作りをしていきましょう。</p> <p>B：今回も早いものでもう皆さんにお別れをいう時間となりました。ここで1つお知らせがあります！！4月より『Hello 多言語の中国語放送』が30分番組となりました！！次回は「子供の日」「ゴールデンウィーク中のイベント情報」と同時に日本人に向けた中国語講座や中国の紹介などをしていきます！！</p> <p>A:こうして皆さんの生活に役立つ情報を提供できることも幸せですが、ぜひ皆さんのお声もお聞かせ下さい！！何でも結構です。自分の主張したいこと、皆さんと一緒に共有したい情報、中国に住んでいた町を自慢したい！！ぜひこちらまでお便りを下さい！！FAX番号は0552-25-1190です！！</p> <p>B：四月からの豪華版をどうぞお楽しみ下さい。 闇とヨウがお送りしました！</p> <p>AB：ばいば〜い</p>
使用楽曲	<p>曲名：悲曲 作曲者名：高進 作詞者名：高進</p>

資料4-3

放送番組記録表 韓国語

2月15日放送分

記入日時(1月22日)

	構成者名 (高野) 番組記録記入者名 (高野) パソコン編集者名 (武川) 完成日時 (1月22日)
番組テーマ	「バス」
番組フォーマット	00:00 統一タイトル 01:00 出演者名 (金宝美) (李美ヒ) (後藤由佳) (高野栄輔) 楽曲名 (『釜山港へ帰れ』) 08:56 終了
番組内容	<p>1. あいさつ、メンバー紹介 2. 今回のテーマ紹介 3. 対話 (日本の情報をメインに) 4. テーマに対するまとめ 5. FAX 番号 6. 歌紹介 7. 歌紹介-挨拶</p> <p>ミヒ: みなさん。こんにちは。今日のメンバーは私イミヒとポミ、日本人の高野君と後藤さんです。</p> <p>高野さん風邪は治りましたか?</p> <p>高野: おかげさまで治りました。でもインフルエンザが流行ってるみたいですね。</p> <p>後藤: インフルエンザで亡くなった人もいますみたいですね。</p> <p>高野: 山梨ではインフルエンザの患者数のが全国で一番多いというニュースもありましたね。</p> <p>ポミ: こわいですね。</p> <p>高野: 流行時期が11月~4月なので、予防接種を受けていない人は受けたほうがいいのかも知れませんね。</p> <p>ポミ: 流行時期真最中ですね。いくらぐらいなんですかね?</p> <p>高野: だいたい2, 3千円くらいで受けられますよ。</p> <p>あと、手洗いうがいをするだけでも予防効果があるのでしっかりしたほうがいいですね。</p> <p>ミヒ: さて、今回のテーマは“バス”についてです。</p> <p>高野: 僕の知り合いの韓国人もバスの乗り方が分からなくて困っていましたね。</p> <p>ポミ: 山梨では車やバスなどの移動手段がないと不便ですよ。</p> <p>韓国ではバスに乗るとき前から乗るんだけど日本も同じかな?</p> <p>高野: 日本では後ろから乗って後ろから降りるんですよ。</p> <p>ミヒ: 韓国と違うんですね。気をつけないと。料金は後ろから乗るときに払うんですか?</p> <p>高野: 料金は後払いなので、乗るときに整理券だけとって乗ります。</p> <p>ミヒ: 料金は韓国では1000ウォンぐらいの固定料金なんですけど、日本では?</p> <p>後藤: 距離によって料金が違う。社内に料金表示板。10円単位で書かれていることがあるので注意が必要。</p> <p>ポミ: じゃ、韓国人がバスに乗るときはカードを利用するほうが便利かも知れませんね。カードはあるんですか?</p> <p>後藤: 山梨独自のICカードがあります。乗るときと降りる時にタッチするだけです。</p> <p>: 韓国と似てるので、簡単そうですね。そのICカードはどこで買えるの?</p> <p>後藤: 甲府駅前の窓口やバスの中</p> <p>: 時刻表などはどこにありますか?</p> <p>高野: バス停に目的地までのバス番号や自国表などがあります。山梨交通のホームページにいくと、時刻表や路線図など詳しくのっていますよ。</p> <p>ポミ: そろそろ時間ですね。(まとめ) ブログにも今日話したテーマについて書かれているのを見てみてくださいね。山梨県立大学韓国サークルと検索するとできます。</p> <p>ミヒ: このようにみなさんから取り上げて欲しいテーマやリクエストなどを募集しています。メールアドレスに送ってください。メールアドレスはtagengokorea@hotmail.co.jpです。</p> <p>ミヒ: ではここで『釜山港へ帰れ』を紹介します。</p> <p>今日の放送はここまでです。</p> <p>全員: みなさんさようなら。</p>
使用楽曲	曲名 『釜山港へ帰れ』 作曲者名 黄善友 作詞者名 黄善友・三桂令二 (日本語歌詞)

資料 4-4

放送番組記録表 スペイン語 1月25日放送分

記入日時 (12月14日)

	構成者名 (Alexis) 番組記録記入者名 (角田 みわ紀) パソコン編集者名 (武川) 完成日時 (12月14日)
番組テーマ	「日本の習慣」
番組フォーマット	00:00 統一タイトル 01:00 出演者名 (Alexis) (Jaqueline) 04:40 音楽① 音楽② 08:56 終了
番組内容	<p>Jaqueline こんにちは。今日もう一回第4日曜日“Hola tagengo en espanol”で会えました。</p> <p>Alexis 元気？時間が早く流れるね。そろそろ新年の1月が終わります。今月みなさん、お正月の関係の日本の習慣を体験したかな？</p> <p>J もちろん。例えば、私は初詣に行きました。あと、デパートや家の前で門松を見ました。家族と一緒におせち料理をいっぱい食べました。</p> <p>A よかったね。その習慣は運や福を呼ぶためにします。知っていましたか。あなたの国はどうしますか。</p> <p>J ペルーで12月31日に道で古い服を使って人形を作って、夜の12時に火をつけます。それは、悪いことを全部焼き捨てると言う意味です。それから飲んだり、踊ったり、パーティーをします。クリスマスは子どもと家族にとって特別です。お正月は大人が中心で、幸せを願うためです。</p> <p>A チリも同じです。どこでもパーティーがあります。夜の12時に乾杯して、爆竹を爆発させたりしてみんなにぎやかに過ごします。天気も影響します。むこうは夏ですから道でも近所に住んでるとパーティーをします。</p> <p>J そうだね。南半球ですから。でもここは冬ですから違います。例えば、私たちのグループのメンバータカヒロの故郷新潟では、お正月に雪がいっぱいありますから出たくない。家の中で家族と一緒にテレビの番組を見るそうです。</p> <p>A もちろん天気にも影響力がある。あ、そうか！12日は成人の日でした。20歳成人式で大人になることを祝います。その時から酒も飲めるし、タバコも吸えるし・・・</p> <p>J すごいね！ペルーは18歳です。だけどそんなパーティーはしないです。でも女性は15歳で大きいパーティーをします。彼女たちはきれいなドレスを着ます。白かピンクなので花嫁さんみたいです。</p> <p>A ここで女性はきれいな着物を着ます。あの着物は柄や色がすごくきれいです。袖の長さは若いしです。</p> <p>J Alexis 新年会に行きましたか。</p> <p>A いいえ、忘年会があったけど新年会はまだ。</p> <p>J 今日終わってからしましょうか。この番組のグループで。</p> <p>A いいアイデアだね。見て、あそこでタカヒト、ミワキたちみんなが手を振っています。彼たちもいいアイデアだと思うみたい。</p> <p>J じゃあここで、ちょっと音楽を聴きましょう。</p> <p>A 来月3日、日本で節分をします。スペイン語で“春の始まる日”</p> <p>J 春？でも一番寒い時期で日本語で“大寒”と言います。だいたい15日間ぐらい。</p> <p>A はい、説明します。だいたい100年前まで日本でつきのカレンダーを使いました。このカレンダーで100年前の新年は2月4日で“立春”です。この言葉の意味は“春の一番初めの日”。だから2月3日は冬の最後の日でびったり大寒の最後です。だからその日悪いことを捨ててよいこと、運や福や幸せを呼びます。いい日じゃない？</p> <p>J あ！今わかった。その理由があるから人は鬼の姿で悪い役をするから子どもたちは豆を投げて「鬼は外」と言います。家の中にいたらドアや窓から大豆やピーナツを外に向かって投げながら「鬼は外」、家の中に向かって投げながら「福はうち」と言います。</p> <p>A そうです。子どもたちは怖くてもよくがんばりすね。そして別の習慣もあります。玄関にヒイラギの葉っぱといわしを飾ります。鬼はいわしのにおいが嫌いだから悪いことをつれてこられ</p>

	<p>ないように飾ります。</p> <p>J ああ、だからその時いわしをいっぱい買います。その日、私の今住んでいる町でよくこの光景を見ます。楽しくておもしろいと思います。</p> <p>A はい。子どもたちは学校や保育園でやってよく知っているかもしれないから、家でもして。あなたの家の近くに、寺か神社があったらあそこに行って。祭りをするかもしれない。あ、最後のこと。豆を年の数だけ食べてください。健康のために。</p> <p>J だから私は 20 個とすこし・・・</p> <p>A (笑)</p> <p>J 時間が終わりますからノートとペンを準備して。</p> <p>A あ！日本の建国記念日は2月11日ですから日本人に“おめでとうございます！”</p> <p>J 番組のアドレスをメモしてください。みなさんのメール、ファックスを待っています。</p> <p>J ファクス：055-223-1190、メール：FM.STAFF@FM.KOFU.CO.JP あなたたちの考え方を知りたい。</p> <p>J&A また今度の番組で！！</p>
使用楽曲	<p>楽曲名① 「TU ME SALVASTE」</p> <p>作曲者名 ALEX GONZALEZ</p> <p>楽曲名② 「AMERICA AMERICA」</p> <p>作曲者名 J.LArmrnteros P.Herrero</p>

山梨日日新聞 2009年1月13日

県内初 エフエム甲府が多言語放送



生徒にインタビューするクラウジオ・マサキさん (中央)
＝中央・田富中

昨年十月にエフエム甲府で始まった山梨県初の多言語放送「ハロー！タゲンゴ」。四方国語の番組制作には、県内在住の外国人や山梨県立大の学生がボランティアとしてプロジェクトに参加し、番組づくりを支えている。

在住外国人と大学生 番組制作サポート

4カ国語で文化、生活情報発信



ル人の生徒にマイクを向け、インタビューしていた。県内で最もフラジール人が多く住む同市で、番組の素材を集めるためだ。

ハロー！タゲンゴ

県内在住の外国人や山梨県立大の学生が制作する、外国人向けの防災や医療、教育などに関する生活情報を伝えるラジオ番組。エフエム甲府(76.3MHz)が、昨年10月から毎週日曜の午後1時から10分間ずつ放送している。毎月第1週はポルトガル語、第2週は中国語、第3週は韓国語、第4週はスペイン語での放送。制作メンバーは言語ごとにグループを作り、それぞれ番組を制作している。

「長男が保育園で節分の豆まきに参加したと聞いた時は驚いた。キリスト教と言う悪魔が登場する行事をなぜ保育園でやるのか。意味が分からず戸惑った。活動の原点は、自身が体験したカルチャーショックだ。ラジオ放送が、日本の文化や歴史を知る機会になってくれる」と話す。

「次回の放送では、お正月や節分などの日本の独特の習慣を紹介したいわ」。十二月上旬、同大でスペイン語による番組制作するグループが次回の放送内容について打ち合わせていた。

「長男が保育園で節分の豆まきに参加したと聞いた時は驚いた。キリスト教と言う悪魔が登場する行事をなぜ保育園でやるのか。意味が分からず戸惑った。活動の原点は、自身が体験したカルチャーショックだ。ラジオ放送が、日本の文化や歴史を知る機会になってくれる」と話す。

西田さんは来日十八年目。文化や習慣の違いで悩んでいる外国人の助けになるよう、ラジオでさまざまなことを伝えたい。番組制作に携わる外国人の思いはさまざまだ。

「長男が保育園で節分の豆まきに参加したと聞いた時は驚いた。キリスト教と言う悪魔が登場する行事をなぜ保育園でやるのか。意味が分からず戸惑った。活動の原点は、自身が体験したカルチャーショックだ。ラジオ放送が、日本の文化や歴史を知る機会になってくれる」と話す。

甲府市が外国籍の市民を対象に行った生活実態調査で、日本語を勉強していない人の9割以上が日本語習得への意欲を示し、8割以上が地域活動への参加を希望していることが分かった。市は調査結果を分析し、今後策定する多文化共生推進計画の事業に生かす方針。

甲府

「日本語勉強したい」9割

外国籍市民の生活実態調査

県国際交流センターの利用者や市内の学校に通う外国籍児童生徒の保護者、留学生ら八百九十五人に調査用紙を配布し、三百三十二人(37%)から回答を得た。出身国は「韓国・朝鮮」が百三十一人、「中国」九十八人、「ブラジル」四十四人、「ペルー」三十人など。

日本語を話す力については、「十分できる」「身近な出来事について話せる」が計65%となった。日本語を勉強していない人(百八十二人)に機会があれば学びたいか聞いたところ、95%が「学びたいと思う」と答えた。

地域で参加している活動(複

地域活動参加にも意欲

数回答)は「子どもの学校の活動」が29%で最も多く、「自治会活動」が21%、「祭りなどの行事」が19%。これまで参加したことがない人も「機会があれば参加したい」とした人が85%に上った。

市多文化共生推進計画策定委員会の委員長を務める安藤淑子・山梨県立大准教授は「日本語の習得や地域活動への参加に意欲がある人が予想以上に多かった。こうした人を行政がサポートし、掘り起こしていくことが多文化共生につながるのではないか」と話している。

市内には約五千六百人の外国人が暮らしている。市は調査結果を参考に、新年度の早い時期に計画を策定し、外国籍市民にとっても住みやすいまちづくりを目指す。

山梨県立大学地域研究交流センター 2008 年度研究報告書
多文化共生～遠隔日本語教育、外国籍住民実態調査、多言語放送～

2009 年 3 月 31 日 発行

編集・ 山梨県立大学地域研究交流センター
発行 山梨県甲府市飯田五丁目 11-1
電話 (055)224-5261 (代)
印刷 (株)三縁



University Center for Research and Exchange

山梨県立大学地域研究交流センター

〒400-0035 甲府市飯田5-11-1
TEL 055-224-5310 FAX 055-224-5330